

5章 鉄筋工事
6 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
7 各部配筋
8 帯筋
9 壁開口部の補強
10 梁貫通孔の補強
11 構造(耐震)スリット

9 柱底均しモルタル及び工法
10 断熱材用型枠
11 ターンバックル
12 デッキプレート
13 スタッド
14 入熱、バス間温度の溶接条件

21. 錆止め塗装
22. 耐火被覆
Table with columns: 種類, 材料・工法, 性能(耐火時間), 適用箇所

7章 鉄骨工事
1 鉄骨の製作工場
2 施工管理技術者
3 鋼材
4 縁端溶接、ボルト間隔、ゲージ等
5 高力ボルト

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
Table with columns: 鋼材の種類, 溶接材料, 入熱(KJ/cm), バス間温度(°C)

1 軽微な変更の対応(あらかじめ検討)
Table with columns: 種類, 材料・工法, 性能(耐火時間), 適用箇所

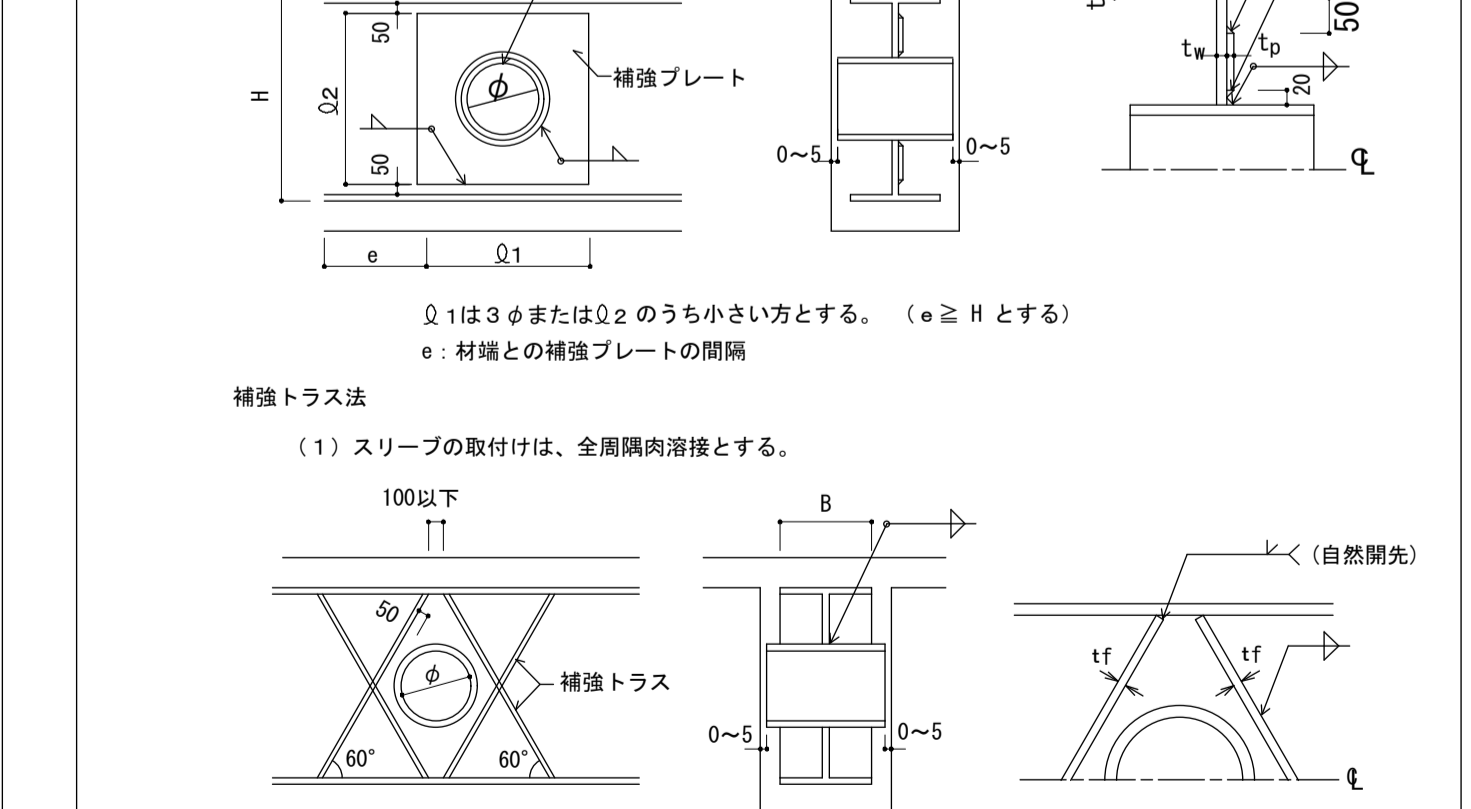
6章 コンクリート工事
1 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度
2 コンクリートの種類
3 セメント
4 骨材
5 混和材料
6 無筋コンクリート

15 溶接施工
16 溶接部の試験
Table with columns: 種類, 材料, 適用箇所

梁貫通孔補強要領図
Table with columns: 種類, 材料・工法, 性能(耐火時間), 適用箇所

7 ひび割れ誘発目地、打継目地
8 コンクリートの仕上げ
9 型枠

17 建方精度
18 軽量形鋼構造
19 溶融亜鉛めっき(構造耐力上主要な部分)
20 梁貫通孔の補強



製作年月日

奥州警察署衣川駐在所庁舎新築工事
設計図

図面内容: 構造関係特記仕様書 NO2
縮尺
図面番号: No. S-02 建築構造

1. 工事概要

本工事は、NSVコラム工法（深層混合処理工法）による地盤改良地業である。本工法は、スラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪拌し固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター、以下指針と言う）による。

3. 特記事項

- 本工事にける工法は、（一財）日本建築センターによる技術審査証明取得工法とする。
- コラム径、掘削、改良深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図書による。但し、柱状改良体直径（以下、コラムという）・長さ・本数位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、根拠となる計算書を提出し、設計監理者の承認を得ること。
- コラムの設計基準強度は $F_c = 440 \text{ kN/m}^2$ とする。
- 設計の要求する性能を確保する為、施工においては羽根切回数600回/m以上（軸回転数120回/m以上）確保し、適切な配合管理及び、品質検査を実施する。

4. 施工計画

- 施工会社
 - 本工事は施工会社は当該工法の施工技術に精通したものとし、工事は責任施工とすること。
 - 工法の開発会社と施工会社は同一とし、協会員、仲介業者等による施工は認めない。

- 施工計画書
 - 工事に先立ち、施工計画を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ① 地盤概要 | ⑧ 仮設設備とその配置 |
| ② 工事内容（コラム径・コラム長・空堀長・コラム数・設計基準強度） | ⑨ 各種作業の主たる従事者の組織表 |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑩ 施工記録の方法 |
| ④ 工事要領（使用固化材・配合） | ⑪ 環境の保全対策 |
| ⑤ 施工機械 | ⑫ 安全対策 |
| ⑥ 施工管理の方法 | ⑬ 建築請負業者の本工事責任者名 |
| ⑦ 品質管理の方法 | ⑭ 本工事施工業者名及び責任者名 |
| | ⑮ 技術審査証明書（工事会社名が記載されていること） |

5. 施工

- 作業地盤は施工機械が、傾斜・転倒しないよう養生する。
- 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - 攪拌装置をコラム芯にセットする。
 - 所定の空堀り深度まで掘削する。
 - 固化材液を吐出しながら混合攪拌する。
 - 所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、攪拌装置で混合攪拌しながら引き上げる
 - 攪拌装置を所定攪拌回転数回転させながら押し下げ・引き上げる。
- 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。
- 施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機械

- 固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合攪拌が出来、共回り現象を防止する攪拌装置を用いること。
- 所定の施工管理項目を計測、記録出来る管理装置を用いること。
- 改良機本体は本工事は施工仕様を満足させる施工制御・管理装置を装備したものとす。
- ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給出来るものとする。

7. 配合管理

- セメントミルクに使用する材料は、セメント系固化材とする。
- 配合計画
 - 固化材液の配合（W/C）と使用量（セメント添加量）は、室内配合試験結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。当該現場近傍に、土質が同様と判断できる施工実績がある場合は、この施工実績に基づき固化材配合量を推定するものとするが、設計基準強度 F_{cd} は、 700 kN/m^2 以下とする。

8. 施工管理

- 施工の安定性を確保する為、下記に示す項目について、1m区間毎に管理できる施工管理システムを用いて施工管理する。

- | | | |
|---------|---|---|
| ① 形状・寸法 | 鉛直性
コラム芯
掘削深度
改良径
支持層着底の管理 | 改良機本体のリーダー内に設置した傾斜計で管理する。
事前に通り芯を水系等を出しコラム芯にマークを設ける。
改良機本体に設置した深度計で計測し記録する。
攪拌装置の形状・寸法を管理装置等で記録する。
NSVコラム工法施工マニュアルに従い支持層着底を管理する |
| | (i)明確な支持層がある場合
地盤調査実施位置の近傍で改良体を打設して回転トルク値を記録する。この値を支持層着底の目安とする。
ただし、支持層が礫や岩盤等で空転によりトルクが記録できない場合、圧入圧により管理する。 | |
| | (ii)明確な支持層がない場合
設計深度到達をもって着底とする。 | |
| ② 固化材 | 材料計量
スラリー比重
固化材の添加量又はスラリーの吐出量 | 水、固化材の重量
比重計（マッドバランス等）
施工管理装置又は、流量計で計測し記録する。 |
| ③ 攪拌混合度 | 攪拌混合回数又は、掘進・引上げ速度
仕事量又は、掘進速度・トルク値 | 施工管理装置又は、速度計で計測し記録する。
施工管理装置又は、速度計（又は、トルク計）で計測し記録する。 |

- 改良天端に施す地業の方法については監理者の指示による。

9. 品質検査

- 建築技術審査証明（建築技術）報告書 NSVコラム工法」小規模建築物における品質検査法に準拠する

- 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数

採取深度：コラム頭部3箇所、深度コア1箇所

試験方法：一軸圧縮試験

調査個数：1箇所当たり3供試体

試験材齢：7日

- 合否の判定

X_i ：検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ（ $1 \leq i \leq n$ ）（ kN/m^2 ）

ただし、 $X_i = 0.75 \cdot q_{uf7}$

q_{uf7} ：モールドコア強度（7日強度）（ kN/m^2 ）

n：コアの抜取個数

XL：合格判定値（ $=F_c$ ）（ kN/m^2 ）

F_c ：設計基準強度（ kN/m^2 ）

10. 管理基準を超えた場合の措置等

- 改良体の芯ずれが許容値を超えた場合、監理者と協議の上、設計検討を行い、安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- 改良下端深度が想定と異なる場合、設計検討を行い安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

		奥州警察署衣川駐在所庁舎新築工事	縮尺	図面内容 セメントコラム 特記仕様書(駐在所)	図面番号
製作年月日					設計図

1. 工事概要

本工事は、NSVコラム工法（深層混合処理工法）による地盤改良地業である。本工法は、スラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪拌し固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター、以下指針と言う）による。

3. 特記事項

- (1) 本工事にける工法は、（一財）日本建築センターによる技術審査証明取得工法とする。
- (2) コラム径、掘削、改良深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図書による。但し、柱状改良体直径（以下、コラムという）・長さ・本数位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、根拠となる計算書を提出し、設計監理者の承認を得ること。
- (3) コラムの設計基準強度は $F_c = 310 \text{ kN/m}^2$ とする。
- (4) 設計の要求する性能を確保する為、施工においては羽根切回数600回/m以上（軸回転数120回/m以上）確保し、適切な配合管理及び、品質検査を実施する。

4. 施工計画

- (1) 施工会社
 - ・本工事は施工会社は当該工法の施工技術に精通したものとし、工事は責任施工とすること。
 - ・工法の開発会社と施工会社は同一とし、協会員、仲介業者等による施工は認めない。

- (2) 施工計画書
 - 工事に先立ち、施工計画を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ① 地盤概要 | ⑧ 仮設設備とその配置 |
| ② 工事内容（コラム径・コラム長・空堀長・コラム数・設計基準強度） | ⑨ 各種作業の主たる従事者の組織表 |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑩ 施工記録の方法 |
| ④ 工事要領（使用固化材・配合） | ⑪ 環境の保全対策 |
| ⑤ 施工機械 | ⑫ 安全対策 |
| ⑥ 施工管理の方法 | ⑬ 建築請負業者の本工事責任者名 |
| ⑦ 品質管理の方法 | ⑭ 本工事施工業者名及び責任者名 |
| | ⑮ 技術審査証明書（工事会社名が記載されていること） |

5. 施工

- (1) 作業地盤は施工機械が、傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - I. 攪拌装置をコラム芯にセットする。
 - II. 所定の空堀り深度まで掘削する。
 - III. 固化材液を吐出しながら混合攪拌する。
 - IV. 所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、攪拌装置で混合攪拌しながら引き上げる
 - V. 攪拌装置を所定攪拌回転数回転させながら押し下げ・引き上げる。
- (3) 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。
- (4) 施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機械

- (1) 固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合攪拌が出来、共回り現象を防止する攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録出来る管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事は施工仕様を満足させる施工制御・管理装置を装備したものとす。
- (4) ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給出来るものとする。

7. 配合管理

- (1) セメントミルクに使用する材料は、セメント系固化材とする。
- (2) 配合計画
 - 固化材液の配合（W/C）と使用量（セメント添加量）は、室内配合試験結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。当該現場近傍に、土質が同様と判断できる施工実績がある場合は、この施工実績に基づき固化材配合量を推定するものとするが、設計基準強度 F_{cd} は、 700 kN/m^2 以下とする。

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保する為、下記に示す項目について、1m区間毎に管理できる施工管理システムを用いて施工管理する。

① 形状・寸法	鉛直性 コラム芯 掘削深度 改良径 支持層着底の管理	改良機本体のリーダー内に設置した傾斜計で管理する。 事前に通り芯を水系等を出しコラム芯にマークを設ける。 改良機本体に設置した深度計で計測し記録する。 攪拌装置の形状・寸法を管理装置等で記録する。 NSVコラム工法施工マニュアルに従い支持層着底を管理する
	(i) 明確な支持層がある場合	地盤調査実施位置の近傍で改良体を打設して回転トルク値を記録する。この値を支持層着底の目安とする。 ただし、支持層が礫や岩盤等で空転によりトルクが記録できない場合、圧入圧により管理する。
	(ii) 明確な支持層がない場合	設計深度到達をもって着底とする。
② 固化材	材料計量 スラリー比重 固化材の添加量又はスラリーの吐出量	水、固化材の重量 比重計（マッドバランス等） 施工管理装置又は、流量計で計測し記録する。
③ 攪拌混合度	攪拌混合回数又は、掘進・引上げ速度 仕事量又は、掘進速度・トルク値	施工管理装置又は、速度計で計測し記録する。 施工管理装置又は、速度計（又は、トルク計）で計測し記録する。
- (2) 改良天端に施す地業の方法については監理者の指示による。

9. 品質検査

- (1) 建築技術審査証明（建築技術）報告書 NSVコラム工法」小規模建築物における品質検査法に準拠する
- (2) 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数
 - 採取深度：コラム頭部3箇所、深度コア1箇所
 - 試験方法：一軸圧縮試験
 - 調査個数：1箇所当たり3供試体
 - 試験材齢：7日
- (3) 合否の判定
 - X_i ：検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ（ $1 \leq i \leq n$ ）（ kN/m^2 ）
 - ただし、 $X_i = 0.75 \cdot q_{uf7}$
 - q_{uf7} ：モールドコア強度（7日強度）（ kN/m^2 ）
 - n：コアの採取個数
 - XL：合格判定値（ $=F_c$ ）（ kN/m^2 ）
 - F_c ：設計基準強度（ kN/m^2 ）

10. 管理基準を超えた場合の措置等

- (1) 改良体の芯ずれが許容値を超えた場合、監理者と協議の上、設計検討を行い、安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- (2) 改良下端深度が想定と異なる場合、設計検討を行い安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

		奥州警察署衣川駐在所庁舎新築工事		図面内容 セメントコラム 特記仕様書(標識板)	縮尺	図面番号 No. S-04 建築構造
製作年月日		設計図				

1. 工事概要

本工事は、NSVコラム工法（深層混合処理工法）による地盤改良地業である。本工法は、スラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪拌し固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター、以下指針と言う）による。

3. 特記事項

- 本工事にける工法は、（一財）日本建築センターによる技術審査証明取得工法とする。
- コラム径、掘削、改良深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図書による。但し、柱状改良体直径（以下、コラムという）・長さ・本数位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、根拠となる計算書を提出し、設計監理者の承認を得ること。
- コラムの設計基準強度は $F_c = 790 \text{ kN/m}^2$ とする。
- 設計の要求する性能を確保する為、施工においては羽根切回数600回/m以上（軸回転数120回/m以上）確保し、適切な配合管理及び、品質検査を実施する。

4. 施工計画

(1) 施工会社

- 本工事は施工会社は当該工法の施工技術に精通したものとし、工事は責任施工とすること。
- 工法の開発会社と施工会社は同一とし、協会員、仲介業者等による施工は認めない。

(2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ① 地盤概要 | ⑧ 仮設設備とその配置 |
| ② 工事内容（コラム径・コラム長・空堀長・コラム数・設計基準強度） | ⑨ 各種作業の主たる従事者の組織表 |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑩ 施工記録の方法 |
| ④ 工事要領（使用固化材・配合） | ⑪ 環境の保全対策 |
| ⑤ 施工機械 | ⑫ 安全対策 |
| ⑥ 施工管理の方法 | ⑬ 建築請負業者の本工事責任者名 |
| ⑦ 品質管理の方法 | ⑭ 本工事施工業者名及び責任者名 |
| | ⑮ 技術審査証明書（工事会社名が記載されていること） |

5. 施工

- 作業地盤は施工機械が、傾斜・転倒しないよう養生する。
- 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - 攪拌装置をコラム芯にセットする。
 - 所定の空堀り深度まで掘削する。
 - 固化材液を吐出しながら混合攪拌する。
 - 所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、攪拌装置で混合攪拌しながら引き上げる
 - 攪拌装置を所定攪拌回転数回転させながら押し下げ・引き上げる。
- 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。
- 施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機械

- 固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合攪拌が出来、共回り現象を防止する攪拌装置を用いること。
- 所定の施工管理項目を計測、記録出来る管理装置を用いること。
- 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御・管理装置を装備したものとす。
- ミキシングブラントは所定吐出量を十分供給出来るものとする。

7. 配合管理

- セメントミルクに使用する材料は、セメント系固化材とする。
- 配合計画
固化材液の配合（W/C）と使用量（セメント添加量）は、室内配合試験結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。当該現場近傍に、土質が同様と判断できる施工実績がある場合は、この施工実績に基づき固化材配合量を推定するものとするが、設計基準強度 F_{cd} は、 700 kN/m^2 以下とする。

8. 施工管理

- 施工の安定性を確保する為、下記に示す項目について、1m区間毎に管理できる施工管理システムを用いて施工管理する。

- | | | |
|---------|---|---|
| ① 形状・寸法 | 鉛直性
コラム芯
掘削深度
改良径
支持層着底の管理 | 改良機本体のリーダー内に設置した傾斜計で管理する。
事前に通り芯を水系等を出しコラム芯にマークを設ける。
改良機本体に設置した深度計で計測し記録する。
攪拌装置の形状・寸法を管理装置等で記録する。
NSVコラム工法施工マニュアルに従い支持層着底を管理する |
| | (i)明確な支持層がある場合
地盤調査実施位置の近傍で改良体を打設して回転トルク値を記録する。この値を支持層着底の目安とする。
ただし、支持層が礫や岩盤等で空転によりトルクが記録できない場合、圧入圧により管理する。 | |
| | (ii)明確な支持層がない場合
設計深度到達をもって着底とする。 | |
| ② 固化材 | 材料計量
スラリー比重
固化材の添加量又はスラリーの吐出量 | 水、固化材の重量
比重計（マッドバランス等）
施工管理装置又は、流量計で計測し記録する。 |
| ③ 攪拌混合度 | 攪拌混合回数又は、掘進・引上げ速度
仕事量又は、掘進速度・トルク値 | 施工管理装置又は、速度計で計測し記録する。
施工管理装置又は、速度計（又は、トルク計）で計測し記録する。 |
- 改良天端に施す地業の方法については監理者の指示による。

9. 品質検査

- 建築技術審査証明（建築技術）報告書 NSVコラム工法」小規模建築物における品質検査法に準拠する
- 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数
採取深度：コラム頭部3箇所、深度コア1箇所
試験方法：一軸圧縮試験
調査個数：1箇所当たり3供試体
試験材齢：7日

(3) 合否の判定

X_i ：検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ（ $1 \leq i \leq n$ ）（ kN/m^2 ）
ただし、 $X_i = 0.75 \cdot q_{uf7}$
 q_{uf7} ：モールドコア強度（7日強度）（ kN/m^2 ）
 n ：コアの抜取個数
 X_L ：合格判定値（ $=F_c$ ）（ kN/m^2 ）
 F_c ：設計基準強度（ kN/m^2 ）

10. 管理基準を超えた場合の措置等

- 改良体の芯ずれが許容値を超えた場合、監理者と協議の上、設計検討を行い、安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- 改良下端深度が想定と異なる場合、設計検討を行い安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

		奥州警察署衣川駐在所庁舎新築工事	縮尺	図面内容 セメントコラム 特記仕様書(車庫)	図面番号
製作年月日					設計図

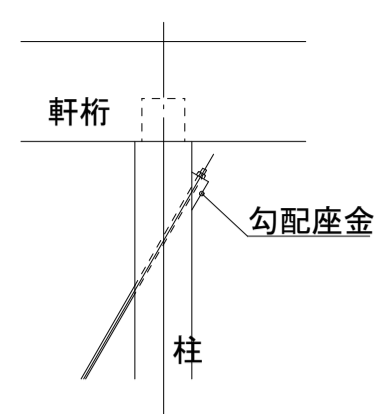
木躯体工事 標準仕様書－1

<p>I. 材料</p> <p>I-1. 木材の品質</p> <p>I-2. 木材の樹種</p> <p>I-3. 木材の含水率</p> <p>I-4. 接合金物等</p> <p>II. 指定寸法</p> <p>・仕上げ・養生</p> <p>II-1. 指定寸法</p> <p>II-2. 仕上げ</p> <p>II-3. 養生</p> <p>III. 防腐・防蟻処理</p> <p>III-1. 適用</p> <p>III-2. 防腐・防蟻措置を講ずる部分</p> <p>III-3. 薬剤による現場処理</p> <p>III-4. 薬剤による工場処理</p> <p>IV. 軸組</p> <p>IV-1. 土台</p>	<p>1. 構造用製材及び構造用集成材は、日本農林規格(JAS)に適合するものとする。</p> <p>1. 構造材の樹種は下表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>部 位</th> <th>樹 種</th> <th>等 級・強 度</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">軸</td> <td>土 台</td> <td>米つが</td> <td>JAS材</td> <td>防腐剤注入処理剤</td> </tr> <tr> <td>管 柱</td> <td>杉KD材</td> <td>JAS材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボ-子柱</td> <td>杉KD材</td> <td>JAS材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>け た</td> <td>米松KD・米松集成材</td> <td>JAS材</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">組</td> <td>役物材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>筋かい</td> <td>杉KD材</td> <td>JAS材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>杉・米松KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">床</td> <td>大 引</td> <td>米松KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>根 太</td> <td>杉KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大引ばり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">組</td> <td>その他</td> <td>杉・米松KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>は り</td> <td>米松KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小</td> <td>東</td> <td>米松KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>母 屋</td> <td>米松KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋</td> <td>タル木</td> <td>杉KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>杉KD材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">組</td> <td>普通合板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐水合板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">各種</td> <td>構造用合板</td> <td>針葉樹合板</td> <td>特類・2級</td> <td>JAS規格品</td> </tr> <tr> <td>パーティクルボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5908</td> </tr> <tr> <td>ハードボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5905</td> </tr> <tr> <td>硬質木毛セメント板</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5404</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 6901</td> </tr> <tr> <td>シーリングボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5905</td> </tr> <tr> <td>ラスシート</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5524</td> </tr> </tbody> </table> <p>I-3. 木材の含水率</p> <p>1. 構造材及び下張材の工事現場搬入時の含水率は20%以下とする。</p> <p>I-4. 接合金物等</p> <p>1. 接合金物の材質は、日本工業規格(JIS)に適合するものとする。</p> <p>2. 特記なき場合、接合金物は下記による。</p> <p>1) (財)日本住宅・木材技術センター「接合金物規格(Zマーク表示金物)」による。</p> <p>2) (財)日本住宅・木材技術センター「枠組壁工法用金物規格(Cマーク表示金物)」による。</p> <p>3) (株)タツミ クレテック金物工法による。</p> <p>1. 木材の断面を表示する寸法で、製材品はひき立寸法、その他の材料にあつては仕上がり寸法とする。</p> <p>II-1. 指定寸法</p> <p>II-2. 仕上げ</p> <p>1. 丸太はすべて、皮はぎ材とする。</p> <p>2. 見えがかりは、すべてカンナ削り仕上げとする。</p> <p>3. 土台・けた等で継ぎ伸ばしの都合上、やむを得ず短材を使用する場合の長さは、土台にあつては1m内外、その他の材にあつては2m内外とする。</p> <p>4. 継手又は仕口を明示していない場合は、一般慣用の工法による。</p> <p>II-3. 養生</p> <p>1. 工事中に汚染や損傷などの恐れのある場合は、紙張り・板当て等適当な方法により養生する。</p> <p>III-1. 適用</p> <p>1. 防腐・防蟻措置は、ひのき・ひば等の耐腐朽性及び耐蟻性の大きな樹種の心材若しくは芯材材を用いるか、又は薬剤による防腐・防蟻処理をおこなうこととする。</p> <p>III-2. 防腐・防蟻措置を講ずる部分</p> <p>1. 防腐・防蟻措置を講ずる木部は次による。</p> <p>1) 土台、外壁部の柱・間柱、筋かい及び下地材のうち、地盤面から1m以内の部分。ただし柱にあつては、室内の見えがかり部分を除く。又それぞれの接合部の木口、ほぞ及びほぞ孔を含む。</p> <p>2) 浴室(浴室ユニットを除く)にあつては、軸組・天井・床組部材で下地材も含むものとする。</p> <p>3) 台所及び洗面所等の水掛かりのおそれのある箇所の軸組・天井・床組部材で下地材も含むものとする。</p> <p>2. 防蟻のための土壌処理をおこなう場合は特記による。</p> <p>III-3. 薬剤による現場処理</p> <p>1. 薬剤の品質は、次による。</p> <p>1) 木部の防蟻処理に使用する薬剤の品質は、JISK1570(木材防腐剤)に適合するクレスソート油の規格品とする。</p> <p>2) 木材の防蟻措置に使用する薬剤の品質は、(社)日本しろあり対策協会又は(社)日本木材保存協会認定の防蟻剤とする。</p> <p>3) 土壌の防蟻措置に使用する薬剤の品質は、(社)日本しろあり対策協会又は(社)日本木材保存協会認定の土壌処理剤とする。</p> <p>2. 薬剤を使用する場合の木材処理方法は、次による。</p> <p>1) 塗布、吹付、浸漬に使用する薬剤の量は、木材及び合板の表面積1㎡につき300mlを標準とする。</p> <p>2) 処理にむらが生じないように、上記1)の範囲内での量で、2回以上処理すること。</p> <p>3) 木材の木口・仕口・継手の接合箇所、亀裂部分、コンクリート及び石などに接する部分は特に入念な処理を行う。</p> <p>III-4. 薬剤による工場処理</p> <p>1. 工場処理による防腐・防蟻処理材は、次による。</p> <p>1) 製材のJASの保存処理(K1を除く)の規格に適合するものとする。</p> <p>2) JISA9108(土台用加圧式防蟻処理木材)の規格に適合するものとする。</p> <p>3) JISK1570に定める加圧注入用防腐剤を用いて、JISA9002による加圧式防蟻処理をおこなった木材とする。</p> <p>4) (社)日本木材保存協会認定の加圧注入用木材防腐剤を用いてJISA9002による加圧式防蟻処理をおこなった木材とする。</p> <p>2. 現場での加工・切断・穿孔箇所等は、III-3-2)に準じて、塗布あるいは吹きつけ処理をおこなう。</p> <p>IV-1. 土台</p> <p>1. 断面寸法は、柱と同寸以上とし105mm×105mmを標準とする。ただし多雪地域においては特記による。</p> <p>2. 継手は、柱及び床下換気口の位置を避け、腰掛けあり継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。</p> <p>3. 仕口は次による。</p> <p>1) 隅部取合部は、大入れこねほぞ差し割りくさび締め又は片あり掛けとする。</p> <p>2) T字取合部及び十字取合部は、大入れあり掛けとする。</p> <p>4. 金物による継手・仕口は、金物メーカーの仕様による。</p>	場所	部 位	樹 種	等 級・強 度	備 考	軸	土 台	米つが	JAS材	防腐剤注入処理剤	管 柱	杉KD材	JAS材		ボ-子柱	杉KD材	JAS材		け た	米松KD・米松集成材	JAS材		組	役物材				筋かい	杉KD材	JAS材		その他	杉・米松KD材			床	大 引	米松KD材			根 太	杉KD材			大引ばり				組	その他	杉・米松KD材			は り	米松KD材			小	東	米松KD材			母 屋	米松KD材			屋	タル木	杉KD材			その他	杉KD材			組	普通合板				耐水合板				各種	構造用合板	針葉樹合板	特類・2級	JAS規格品	パーティクルボード			JIS A 5908	ハードボード			JIS A 5905	硬質木毛セメント板			JIS A 5404	せっこうボード			JIS A 6901	シーリングボード			JIS A 5905	ラスシート			JIS A 5524	<p>V. 耐力壁</p> <p>V-1. 筋かい</p> <p>1. 筋かいの耐力倍率による仕様は、次による。</p> <p>1) 壁倍率1.0</p> <p>・ 断面寸法が15mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>・ 径9mm以上の鉄筋を使用する。</p> <p>2) 壁倍率1.5</p> <p>・ 断面寸法が30mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>3) 壁倍率2.0</p> <p>○ 断面寸法が45mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>4) 壁倍率3.0</p> <p>・ 断面寸法が90mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>2. 筋かい端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かいが取り付く柱端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>V-2. 木張り</p> <p>V-3. 面材耐力壁</p> <p>1. 面材耐力壁の仕様は、次による。</p> <p>1) 構造用合板はJASに適合するもので、接着の程度は特類とし、厚さは9.0mm以上とする。</p> <p>2) パーティクルボードはJISA5908に適合するもので、種類は曲げ強さの区分が8タイプ以外のものとし、厚さは12mm以上とする。</p> <p>3) 構造パネルは、JASに適合するものとする。</p> <p>4) ハードボードは、JISA5905に適合するもので、曲げ強さの種類は35タイプ又は45タイプとし、厚さは5mm以上とする。</p> <p>5) 硬質木片セメント板はJISA5417に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</p> <p>6) せっこうボードはJISA6901に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</p> <p>7) シーリングボードはJISA5905に適合するもので、種類はシーリングインシュレーションボードとし、厚さは12mm以上とする。</p> <p>8) ラスシートはJISA5524に適合するもので、種類はLS4とする。</p> <p>2. 面材耐力壁の張り付け釘種類及び間隔は、国土交通省告示第1541号による。</p> <p>3. 面材耐力壁の張り付け方法は、次による。</p> <p>1) 構造用面材は、柱・間柱及び土台・はり・けた・その他の横架材に確実に釘で留め付ける。</p> <p>2) 建物の2階にわたり上下同位置に構造用面材壁を設ける場合は、胴差し部において構造用面材相互間に原則として6mm以上の隙間を設ける。</p> <p>3) 柱・梁以外の場所でやむをえず構造用面材を継ぐ場合は、間柱及び胴差等の断面は45mm×65mm以上とする。</p> <p>4) 構造用面材は原則として縦張りとする。</p> <p>4. 構造用面材の下地に受け材を用いる場合は、次による。(真壁造の面材耐力壁仕様)</p> <p>1) 受け材の断面寸法は、40mm×60mm以上とする。</p> <p>2) 受け材は、柱及びはり・けた・土台又はその他の横架材に、N90釘で300mm以下の間隔で平打ちする。</p>	<p>IV-2. 火打土台</p> <p>1. 木材の火打土台とする場合は、次による。</p> <p>1) 断面寸法は、45mm×90mm以上とする。</p> <p>2) 見つけ平使いとし、土台との仕口は、かたぎ大入れとし、N90釘2本平打ちとする。</p> <p>IV-3. 柱</p> <p>IV-4. 間柱</p> <p>IV-5. 横架材</p> <p>IV-6. 通し貫</p> <p>V-1. 筋かい</p> <p>V-2. 木張り</p> <p>V-3. 面材耐力壁</p>	<p>IV-2. 火打土台</p> <p>1. 木材の火打土台とする場合は、次による。</p> <p>1) 断面寸法は、45mm×90mm以上とする。</p> <p>2) 見つけ平使いとし、土台との仕口は、かたぎ大入れとし、N90釘2本平打ちとする。</p> <p>IV-3. 柱</p> <p>1. 柱の断面寸法は、次による。</p> <p>1) 管柱の断面寸法は、105mm×105mm以上とする。ただし多雪区域においては特記による。</p> <p>2) 通し柱の断面寸法は、105mm×105mm以上とする。</p> <p>2. 柱端部と土台及び横架材の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かい及び面材耐力壁が取り付く柱の端部と土台及び横架材の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>IV-4. 間柱</p> <p>1. 横架材との仕口は、大入れとし、N75釘2本を斜め打ちする。</p> <p>2. 筋かい当たりは、間柱を切り欠きN75釘2本を平打ちする。</p> <p>3. 通し貫当たりは、添え付けて、N65釘2本を平打ちする。</p> <p>IV-5. 横架材</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態及びスパンを勘案して適切なものとして特記する。</p> <p>2. 継手は、はり及び筋かいを受ける柱間を避け、柱より持ち出し、追掛け大せみ継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。</p> <p>3. 通し柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、金物の補強は次のいづれかによる。</p> <p>1) 短ざく金物当てM12六角ボルト締め、スクリー-釘打ちとする。</p> <p>2) かね折り金物当てM12六角ボルト締め、スクリー-釘打ちとする。</p> <p>3) M12羽子板ボルト締めとする。</p> <p>4. 金物による継手又は仕口は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>IV-6. 通し貫</p> <p>1. 柱に差し通し、両面からクサビ締め釘打ちとする。</p> <p>V-1. 筋かい</p> <p>1. 筋かいの耐力倍率による仕様は、次による。</p> <p>1) 壁倍率1.0</p> <p>・ 断面寸法が15mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>・ 径9mm以上の鉄筋を使用する。</p> <p>2) 壁倍率1.5</p> <p>・ 断面寸法が30mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>3) 壁倍率2.0</p> <p>○ 断面寸法が45mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>4) 壁倍率3.0</p> <p>・ 断面寸法が90mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>2. 筋かい端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かいが取り付く柱端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>V-2. 木張り</p> <p>V-3. 面材耐力壁</p> <p>1. 面材耐力壁の仕様は、次による。</p> <p>1) 構造用合板はJASに適合するもので、接着の程度は特類とし、厚さは9.0mm以上とする。</p> <p>2) パーティクルボードはJISA5908に適合するもので、種類は曲げ強さの区分が8タイプ以外のものとし、厚さは12mm以上とする。</p> <p>3) 構造パネルは、JASに適合するものとする。</p> <p>4) ハードボードは、JISA5905に適合するもので、曲げ強さの種類は35タイプ又は45タイプとし、厚さは5mm以上とする。</p> <p>5) 硬質木片セメント板はJISA5417に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</p> <p>6) せっこうボードはJISA6901に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</p> <p>7) シーリングボードはJISA5905に適合するもので、種類はシーリングインシュレーションボードとし、厚さは12mm以上とする。</p> <p>8) ラスシートはJISA5524に適合するもので、種類はLS4とする。</p> <p>2. 面材耐力壁の張り付け釘種類及び間隔は、国土交通省告示第1541号による。</p> <p>3. 面材耐力壁の張り付け方法は、次による。</p> <p>1) 構造用面材は、柱・間柱及び土台・はり・けた・その他の横架材に確実に釘で留め付ける。</p> <p>2) 建物の2階にわたり上下同位置に構造用面材壁を設ける場合は、胴差し部において構造用面材相互間に原則として6mm以上の隙間を設ける。</p> <p>3) 柱・梁以外の場所でやむをえず構造用面材を継ぐ場合は、間柱及び胴差等の断面は45mm×65mm以上とする。</p> <p>4) 構造用面材は原則として縦張りとする。</p> <p>4. 構造用面材の下地に受け材を用いる場合は、次による。(真壁造の面材耐力壁仕様)</p> <p>1) 受け材の断面寸法は、40mm×60mm以上とする。</p> <p>2) 受け材は、柱及びはり・けた・土台又はその他の横架材に、N90釘で300mm以下の間隔で平打ちする。</p>	<p>VI. 小屋組</p> <p>VI-1. 小屋ばり</p> <p>VI-2. 小屋づか</p> <p>VI-3. むな木・母屋</p>	<p>VI-4. 雲筋かい</p> <p>振れ止め</p> <p>VI-5. たる木</p> <p>VI-6. 火打ちばり</p> <p>VII. 床組</p> <p>VII-1. 大引</p> <p>VII-2. 床づか</p> <p>VII-3. 根太掛け</p> <p>VII-4. 根太</p> <p>VII-5. 床ばり</p> <p>VII. 基礎</p> <p>VII-1. 一般事項</p> <p>VII-2. 鉄筋材料及び加工</p> <p>VII-3. アンカーボルト</p> <p>VII-4. ホールダウン専用アンカーボルト</p>	<p>1. 断面寸法は、15mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 留めつけは、つかに添えつけ、N50釘2本を平打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、軒の出等を勘案し適切なものとして特記による。</p> <p>2. 継手は、乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、N75釘2本打ちとする。</p> <p>3. 軒先以外の留めつけは、受け材当たりN75釘で両面から斜め打ちとする。ただし、たる木のせいが45mm以下の場合はN90釘を脳天打ちとすることができる。</p> <p>4. 軒先部の留めつけは、けたにひねり金物、折り曲げ金物又はくら金物を当て釘打ちとする。</p> <p>VI-6. 火打ちばり</p> <p>1. 木材の火打ちばりとする場合は、次による。</p> <p>1) 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2) 横架材との仕口は、かたぎ大入れとし、M12六角ボルト引きとする。</p> <p>2. 鋼製の火打ちばりとする場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>VII-1. 大引</p> <p>1. 断面寸法は、105mm×105mm以上とする。</p> <p>2. 継手は、床づかから150mm程度持ち出し、相欠き継ぎのうえN75釘2本打ちとするか、腰掛あり継ぎとする。</p> <p>3. 土台との仕口は、大入れあり掛け、腰掛け又は乗せ掛けとし、いづれもN75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>VII-2. 床づか</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 大引との仕口は、突付けとしN75釘を斜め打ちのうえ、ひら金物を当て釘打ち又はかすがい打ちとする。</p> <p>3. 下部は、つか石・土間コンクリートに突付けとし、根がらみを添えつけ釘打ちとする。又床づかが浮き上がらないような措置を講ずること。</p> <p>4. 鋼製床づかを使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>VII-3. 根太掛け</p> <p>1. 断面寸法は、24mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継ぎ手は、柱心で突付け継ぎとしN75釘2本を平打ちとする。</p> <p>3. 留めつけは、柱・間柱当りにN75釘2本を平打ちする。</p> <p>VII-4. 根太</p> <p>1. 断面寸法は、45mm×60mm以上とする。ただし地下大引間隔が900mmを超えるときは45mm×105mm以上とする。ただし地下大引間隔は1,800mmを最大とする。</p> <p>2. 根太間隔は、畳床の場合は450mm内外とし、その他の場合は300mm内外とする。</p> <p>3. 継手は、受材心で突付け継ぎとしN90釘打ちとする。</p> <p>4. はり又は大引との仕口は、掛渡しとしN75釘2本斜め打ちとする。ただし、根太のせいが90mm以上の場合は大入れ渡りあご掛けとし、N75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>VII-5. 床ばり</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、スパン、はり間隔等を勘案して適切なものとし、特記による。</p> <p>2. 継手は、次のいずれかによる。</p> <p>1) 受材上で大材を下にして台持ち継ぎとしてM12六角ボルト2本締めとする。</p> <p>2) 受材より150mm内外持出し、追掛け大せみ継ぎとする。</p> <p>3) はりせいが120mm程度のものは、大材を受材より150mm内外持出し上端をそろえ、腰掛けかま継ぎ又は腰掛あり継ぎとし、短ざく金物両面当てM12六角ボルト締め釘打ちとする。</p> <p>3. 仕口は、次のいずれかによる。</p> <p>1) 柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、羽子板ボルト締め又は箱金物ボルト締めとする。</p> <p>2) T字取合いは、大入れあり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。</p> <p>3) 受材が横架材の場合は、渡りあご掛けとする。</p> <p>4. 継手及び仕口に既製品の金物を使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>VII-6. 火打ちばり</p> <p>1. 火打ちばりは前項 VI. 小屋組 VI-6. 火打ちばりに準ずる。</p> <p>VII-1. 一般事項</p> <p>1. 基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。</p> <p>2. 基礎の構造は、次のいずれかとする。</p> <p>1) 布基礎</p> <p>②) 腰壁と一体となった布基礎</p> <p>③) ベタ基礎</p> <p>3. 構造体は、一体の鉄筋コンクリート造とする。</p> <p>4. 基礎の深さは、設計耐力の地盤まで掘り下げるとともに、建設地域の凍結深度より深くする。</p> <p>5. 立上り部分の高さは、地盤面より400mm以上高くする。</p> <p>6. 立上り部分の中は、150mm以上でかつ土台幅より大きくする。</p> <p>7. 基礎の寸法及び配筋は特記による。</p> <p>VII-2. 鉄筋材料及び加工</p> <p>1. 鉄筋は、JISG3112又はJISG3117のJISマーク表示品とし、その種類及び径は特記による。</p> <p>2. 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。</p> <p>3. 鉄筋の継手は、D16以下では重ね継手、D19以上はガス圧接継手とする。</p> <p>4. 有害な曲がり、ひび割れ、さされ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。</p> <p>5. 鉄筋の最小かぶり厚さは、基礎の立上り部分においては50mm以上、底盤においては70mm以上とする。</p> <p>VII-3. アンカーボルト</p> <p>1. アンカーボルト及び産金は、Zマーク表示金物のM12アンカーボルト、産金とする。</p> <p>2. アンカーボルトの埋設位置は、次による。</p> <p>1) 構造耐力壁の部分は、その両端の柱心から150mm内外の位置に埋設する。</p> <p>2) 土台の切れ箇所、土台の継手及び仕口箇所の土台端部</p> <p>3) 上記以外の部分においては、間隔1.8m以内の位置に埋設する。</p> <p>3. アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは240mm以上とし、ボルトネジ部の先端は、土台の上端においてナットの外にネジ山が3山以上出るようにする。</p> <p>4. アンカーボルトの保持及び埋込み工法は、特記が無ければアンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠に固定しコンクリートの打込みを行うものとする。</p> <p>VII-4. ホールダウン専用アンカーボルト</p> <p>1. ホールダウン専用アンカーボルト及び産金は、Zマーク表示金物のM16アンカーボルト、産金とする。</p> <p>2. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設位置は設計図書の特記による。</p> <p>3. ホールダウン専用アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは360mm以上とする。</p> <p>4. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は、取り付く柱の位置に専用治具を用い正確に埋め込むこと。</p>
場所	部 位	樹 種	等 級・強 度	備 考																																																																																																																				
軸	土 台	米つが	JAS材	防腐剤注入処理剤																																																																																																																				
	管 柱	杉KD材	JAS材																																																																																																																					
	ボ-子柱	杉KD材	JAS材																																																																																																																					
	け た	米松KD・米松集成材	JAS材																																																																																																																					
組	役物材																																																																																																																							
	筋かい	杉KD材	JAS材																																																																																																																					
	その他	杉・米松KD材																																																																																																																						
床	大 引	米松KD材																																																																																																																						
	根 太	杉KD材																																																																																																																						
	大引ばり																																																																																																																							
組	その他	杉・米松KD材																																																																																																																						
	は り	米松KD材																																																																																																																						
小	東	米松KD材																																																																																																																						
	母 屋	米松KD材																																																																																																																						
屋	タル木	杉KD材																																																																																																																						
	その他	杉KD材																																																																																																																						
組	普通合板																																																																																																																							
	耐水合板																																																																																																																							
各種	構造用合板	針葉樹合板	特類・2級	JAS規格品																																																																																																																				
	パーティクルボード			JIS A 5908																																																																																																																				
	ハードボード			JIS A 5905																																																																																																																				
	硬質木毛セメント板			JIS A 5404																																																																																																																				
	せっこうボード			JIS A 6901																																																																																																																				
	シーリングボード			JIS A 5905																																																																																																																				
	ラスシート			JIS A 5524																																																																																																																				
<p>製作年月日</p>		<p>奥州警察署衣川駐在所庁舎新築工事</p> <p>設計図</p>			<p>図面内容</p> <p>木躯体工事 標準仕様書－1</p> <p>縮尺</p> <p>図面番号</p> <p>No. S-06</p> <p>建築意匠</p>																																																																																																																			

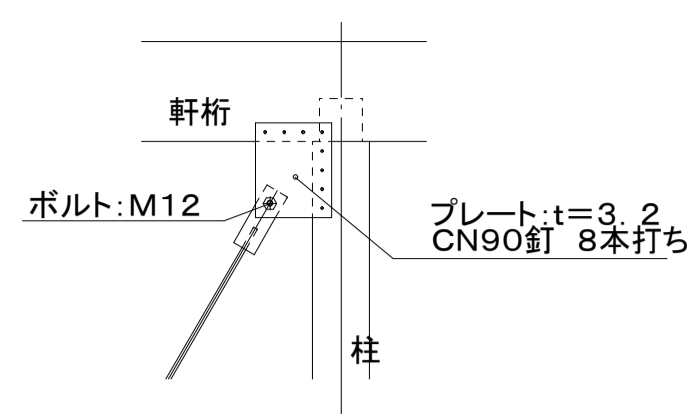
木躯体工事 標準仕様書-2

国土交通省告示 第1460号 壁筋かい端部仕口例
 ・ 1号-イ
 9mm以上の鉄筋

①勾配座金を使用する場合

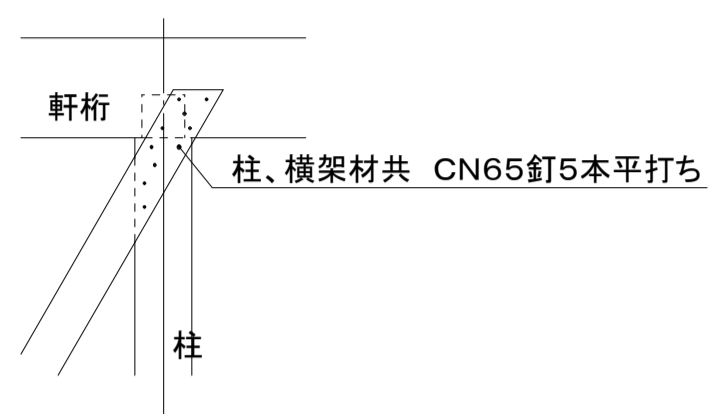


②仕口プレートを使用する場合



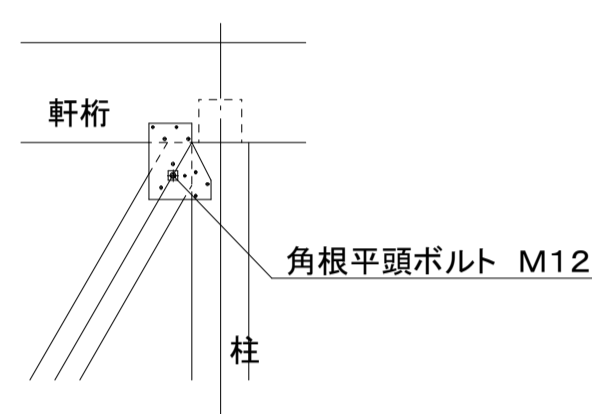
・ 1号-ロ
 1.5×9.0cm以上の木材

①釘を平打ちする場合

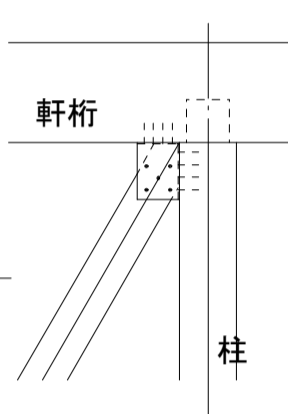


・ 1号-ハ
 3.0×9.0cm以上の木材

①BPプレートを使用する場合

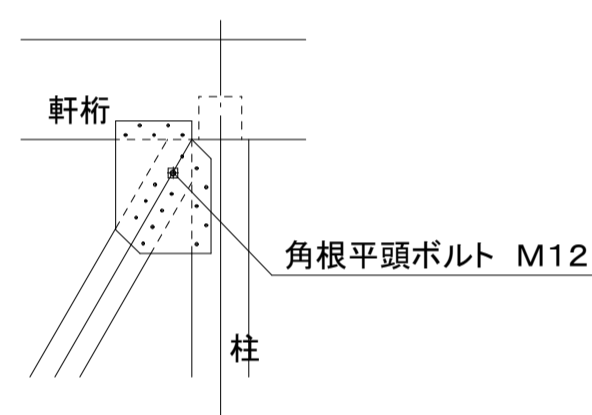


②BOX金物を使用する場合

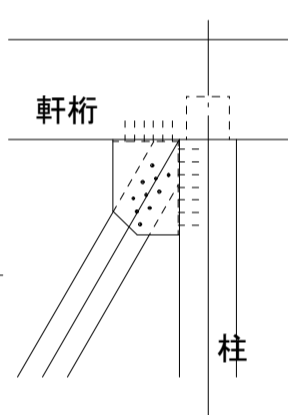


◎ 1号-ニ
 4.5×9.0cm以上の木材

①BP-2プレートを使用する場合

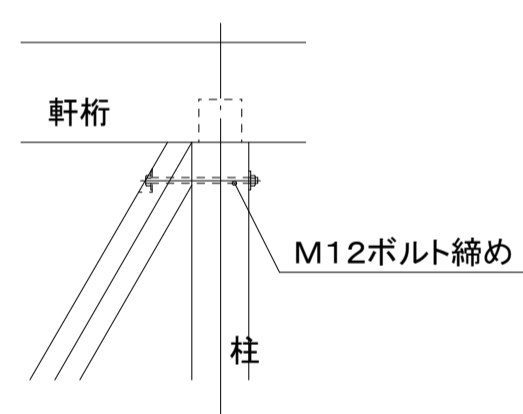


②BOX金物を使用する場合



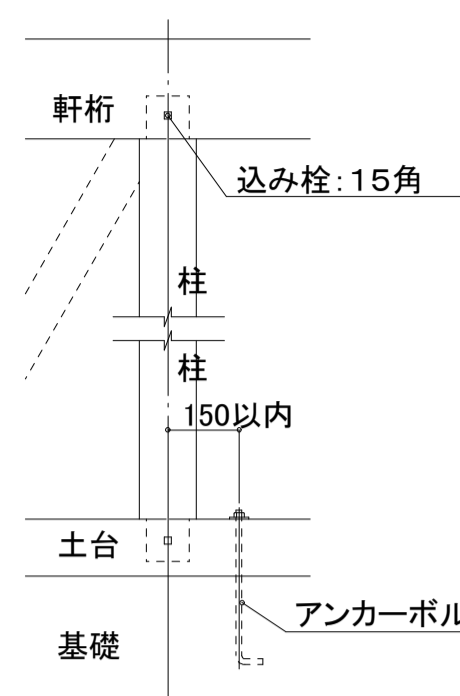
・ 1号-ホ
 9.0×9.0cm以上の木材

①M12ボルトを使用する場合

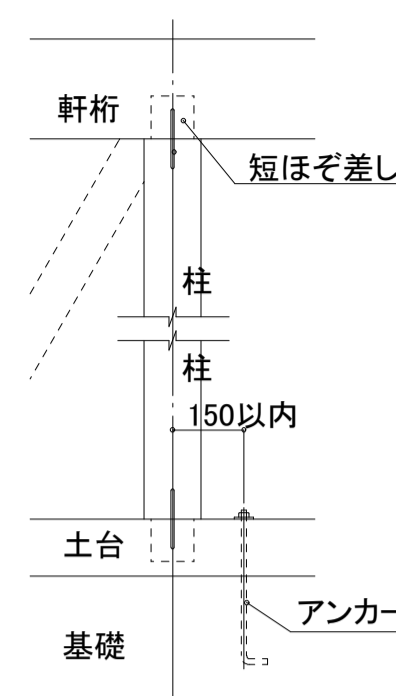


国土交通省告示 第1460号 柱と横架材との仕口
 ◎ 表三-イ

①短ほぞ差し込み栓打ちの場合

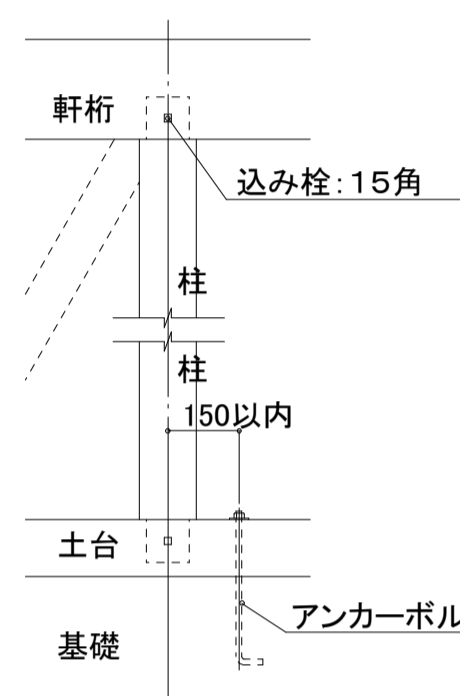


②かすがいを使用する場合

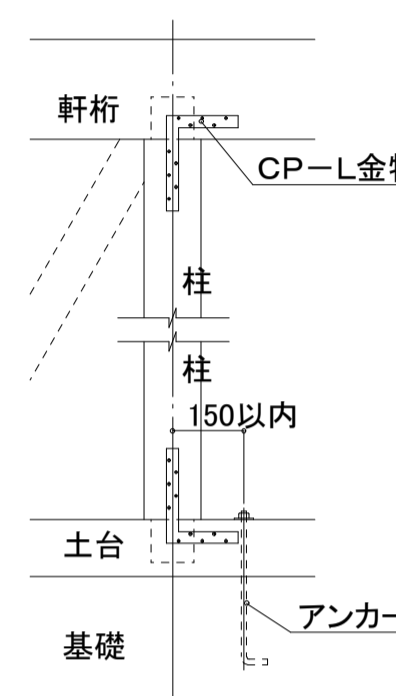


◎ 表三-ロ

①短ほぞ差し込み栓打ちの場合

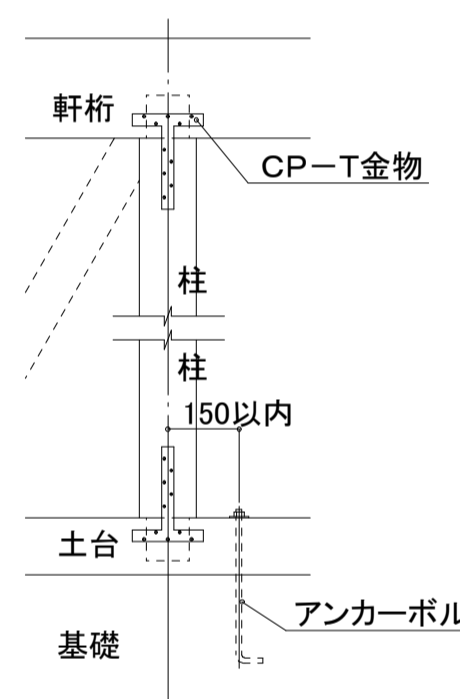


②CP-L金物を使用する場合

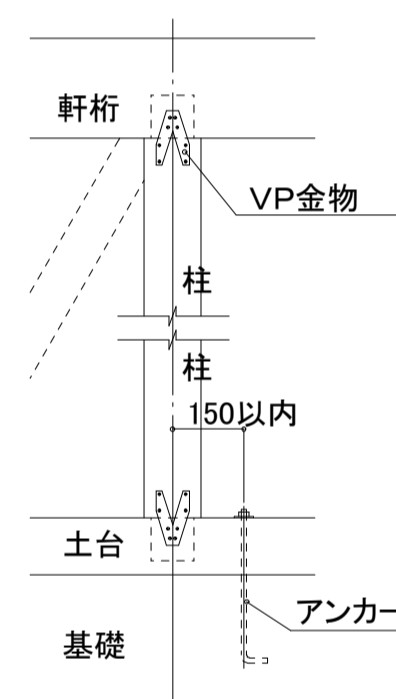


・ 表三-ハ

①CP-T金物を使用する場合



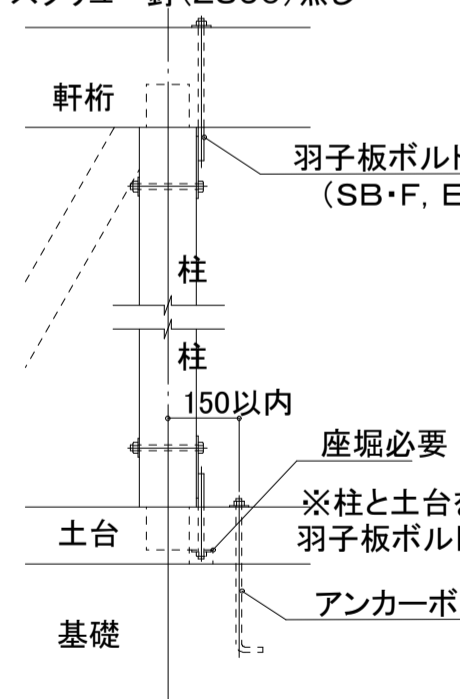
②山形プレート(VP)金物を使用する場合



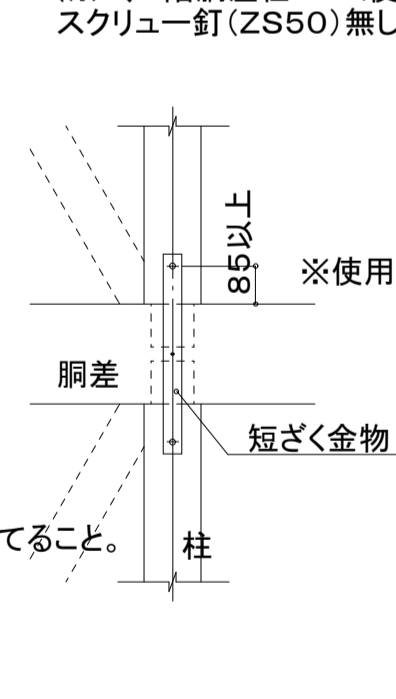
柱と横架材との仕口

◎ 表三-ニ

①羽子板ボルトを使用する場合

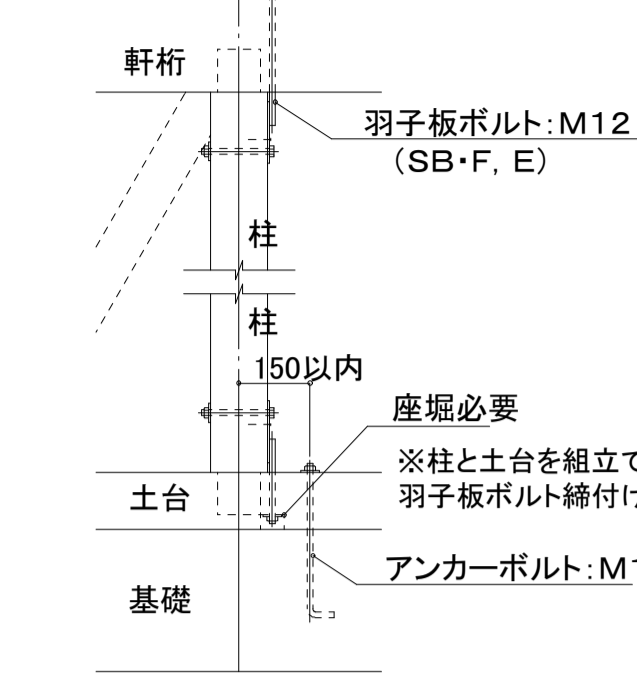


②短ざく金物を使用する場合

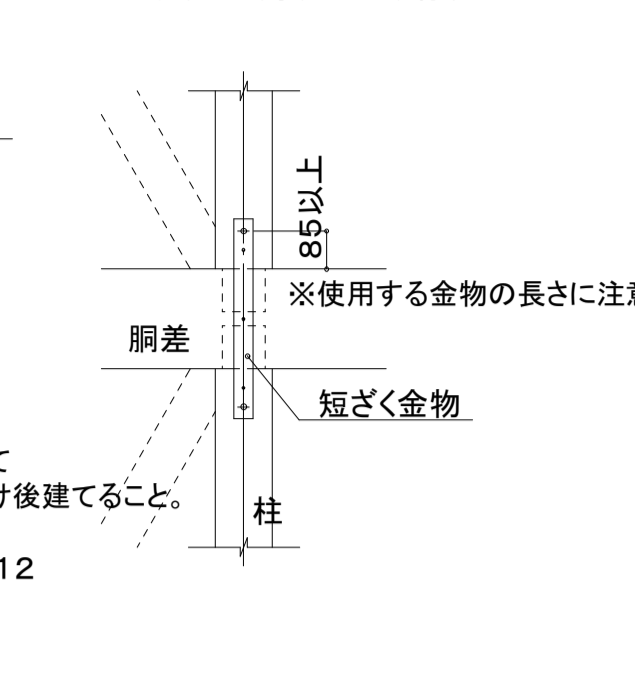


国土交通省告示 第1460号 ◎ 表三-ホ

①羽子板ボルトを使用する場合

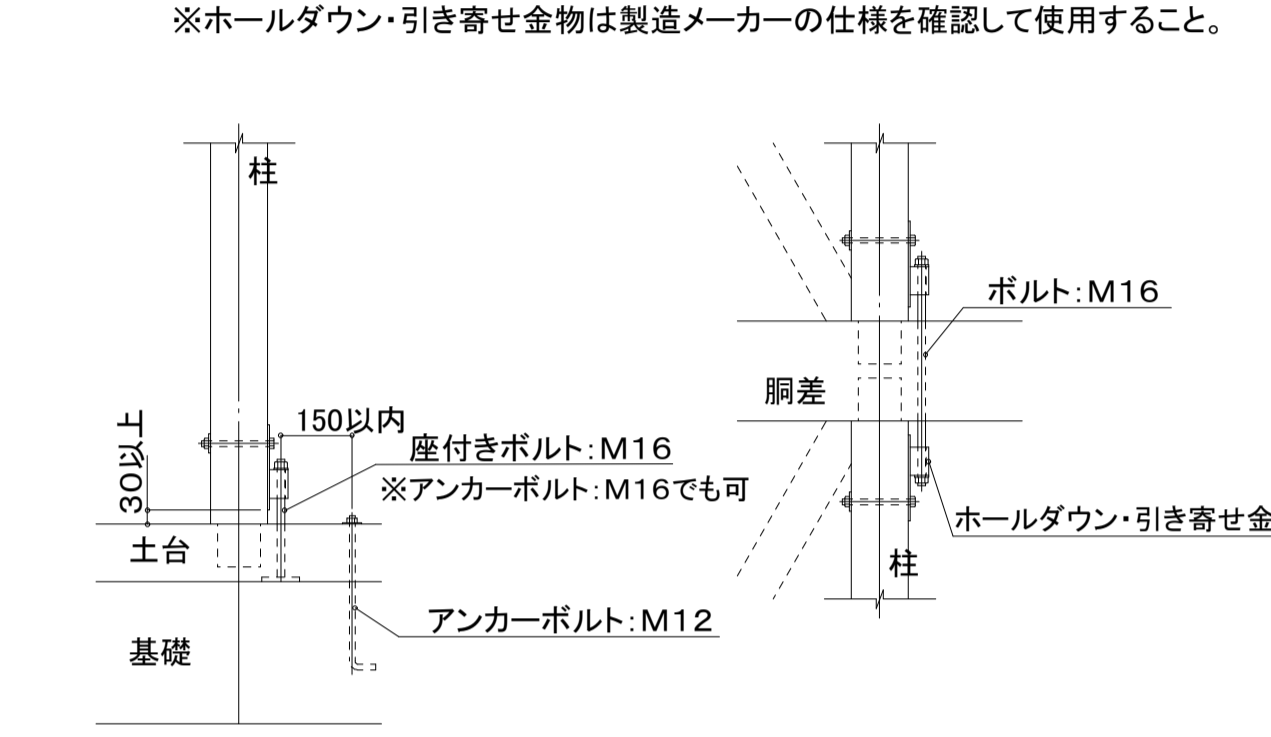


②短ざく金物を使用する場合



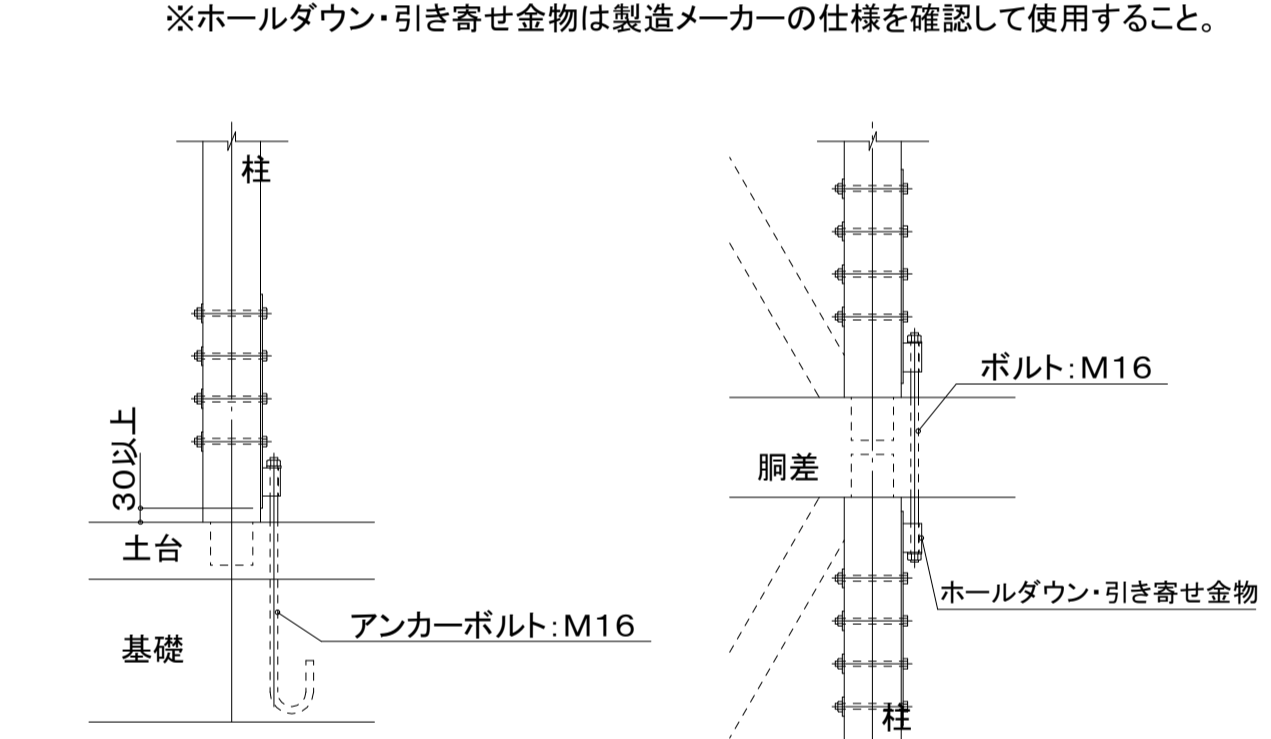
◎ 表三-ヘ

①ホールダウン・引き寄せ金物(10KN用)を使用する場合



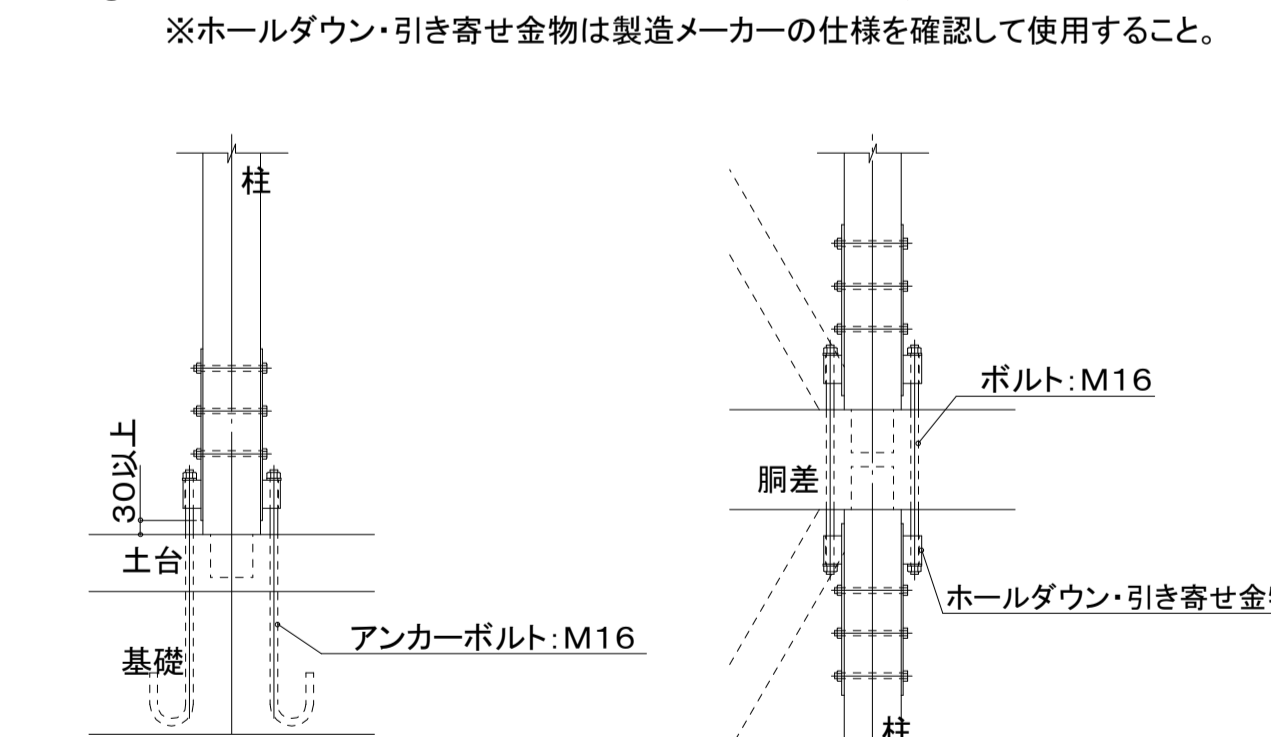
・ 表三-ト(15KN用)
 ・ 表三-チ(20KN用)
 ・ 表三-リ(25KN用)

①ホールダウン・引き寄せ金物を使用する場合

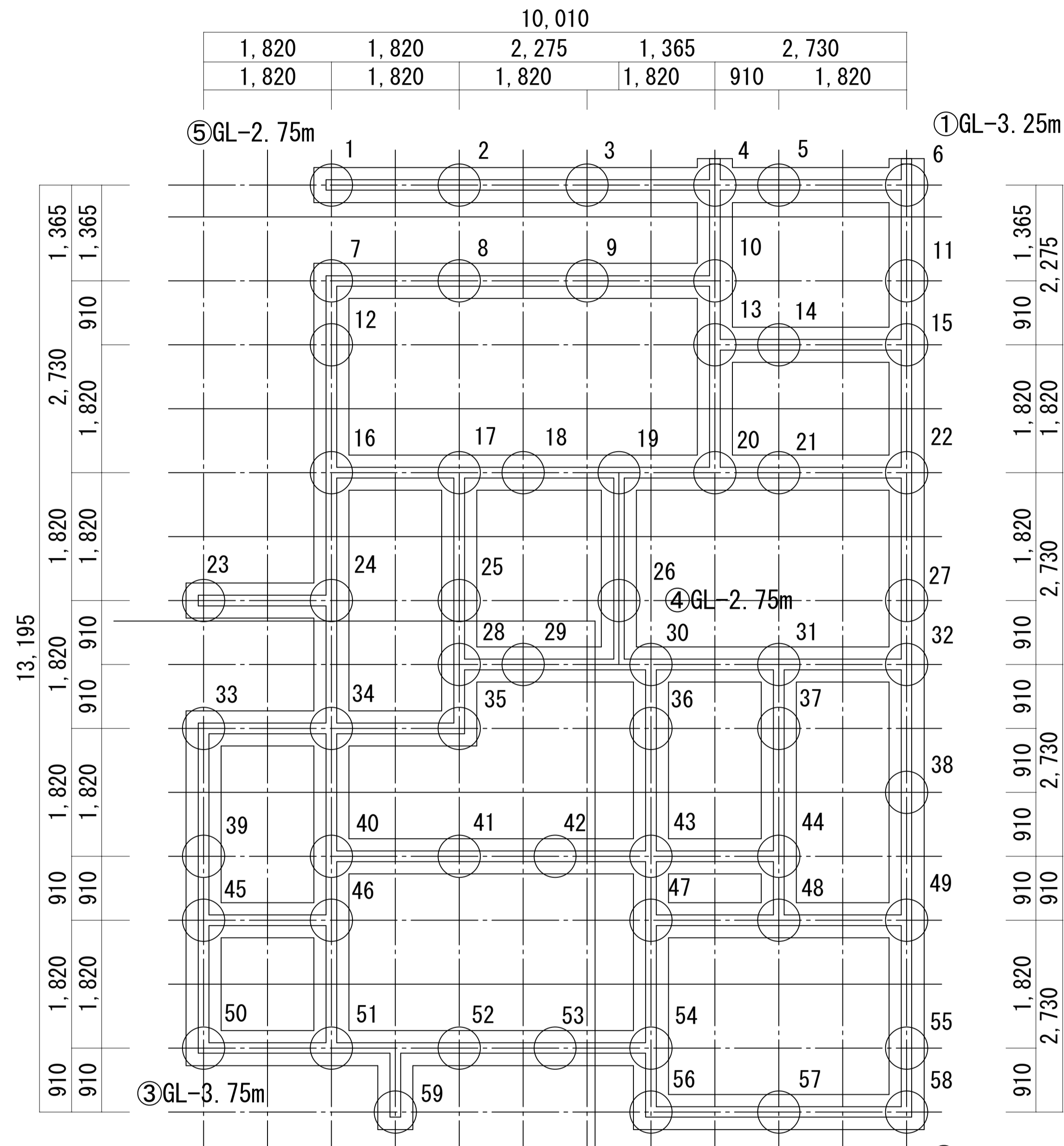


・ 表三-ヌ

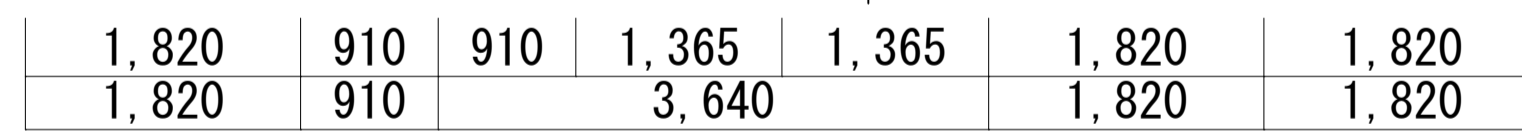
①ホールダウン・引き寄せ金物(2ヶ所-15KN)を使用する場合



施工深度目安
GL-2.75~3.25m×43本



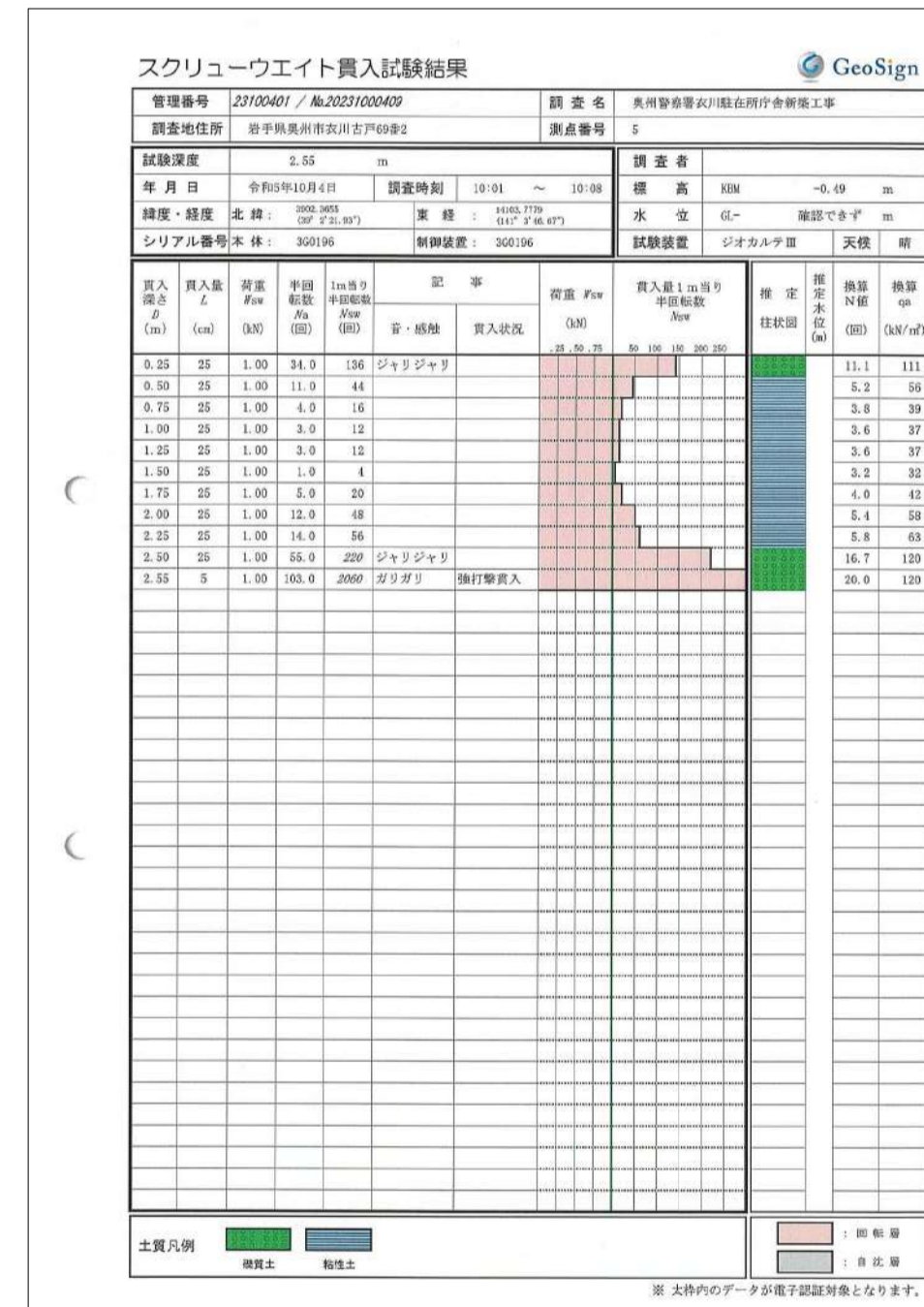
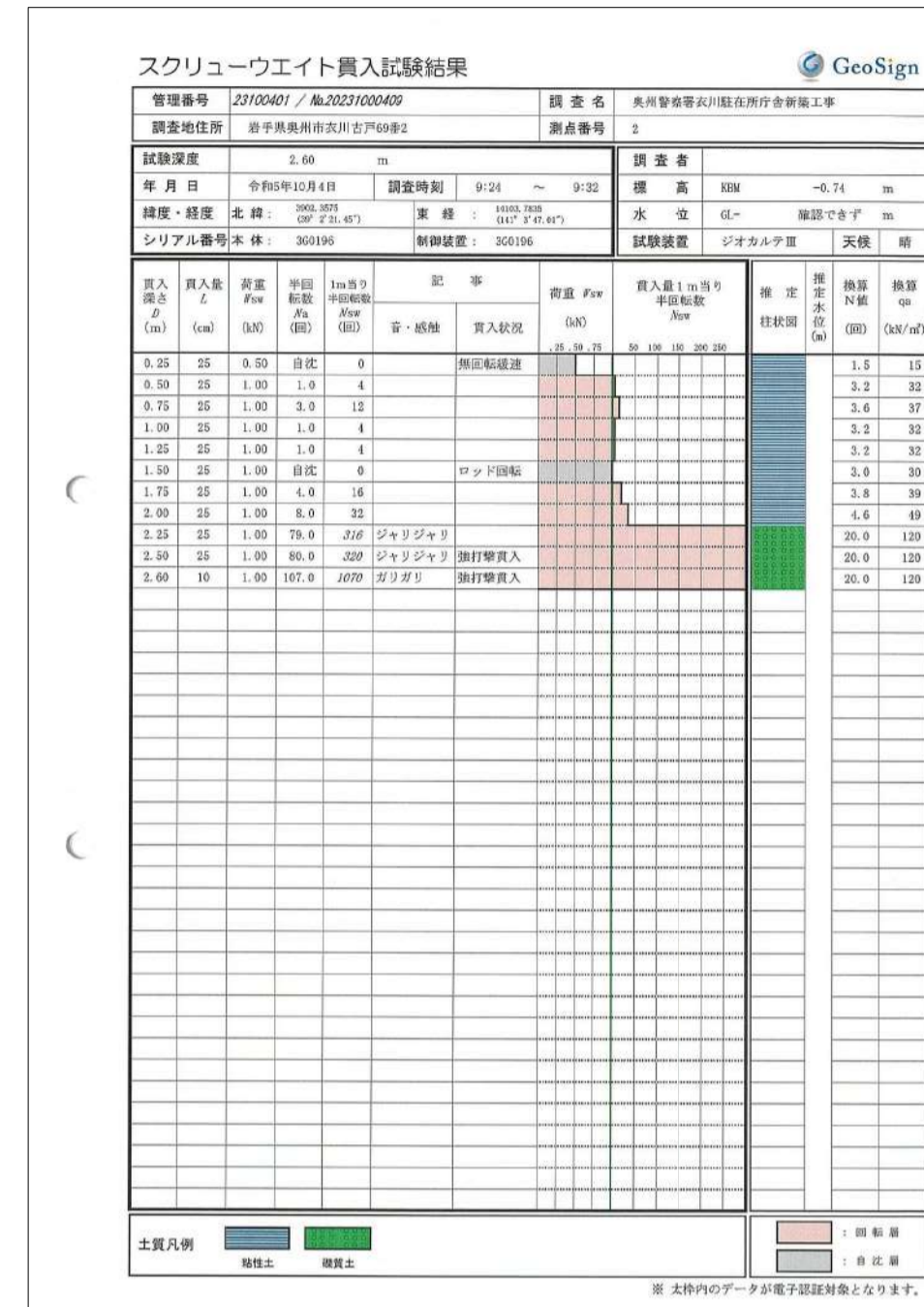
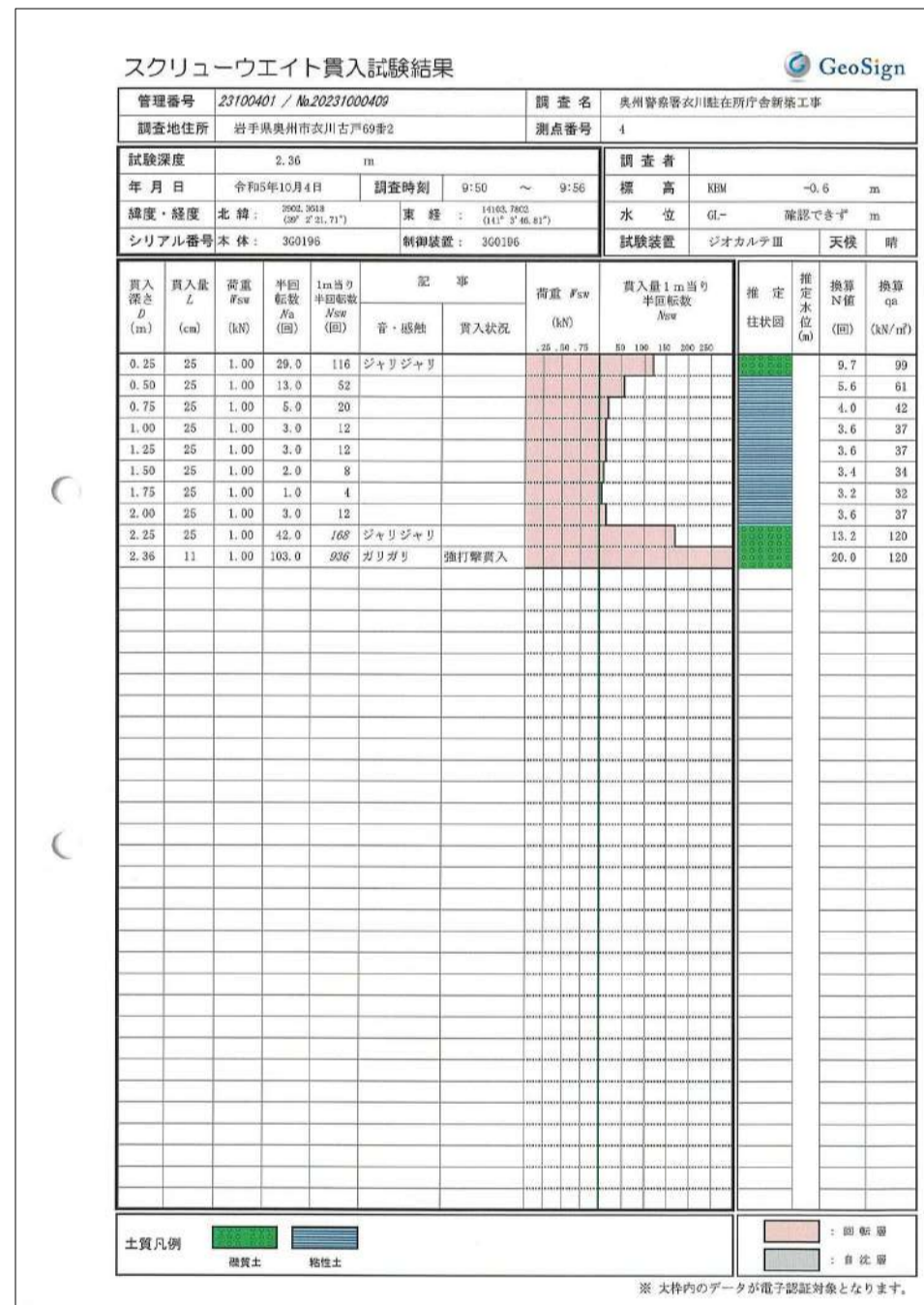
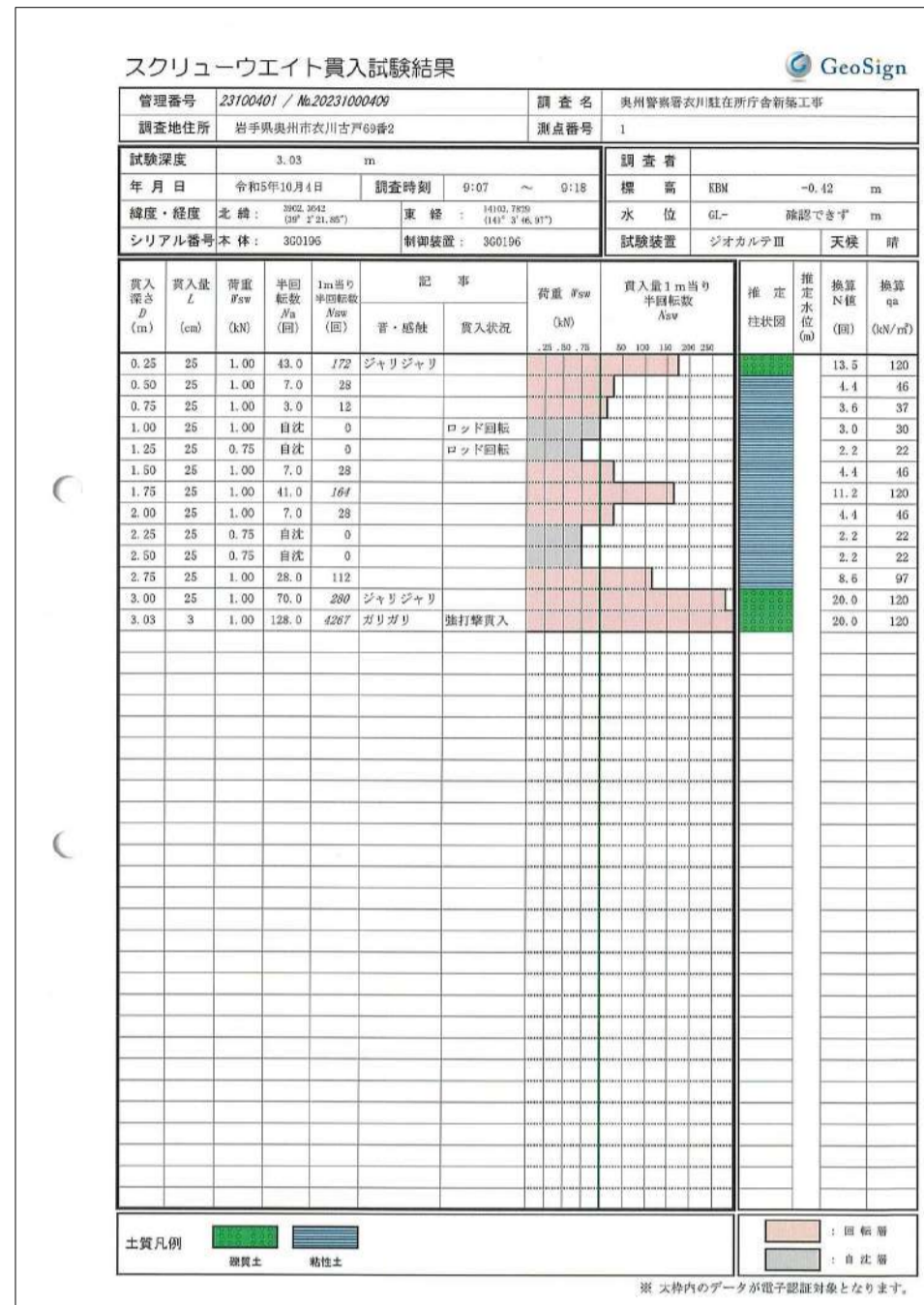
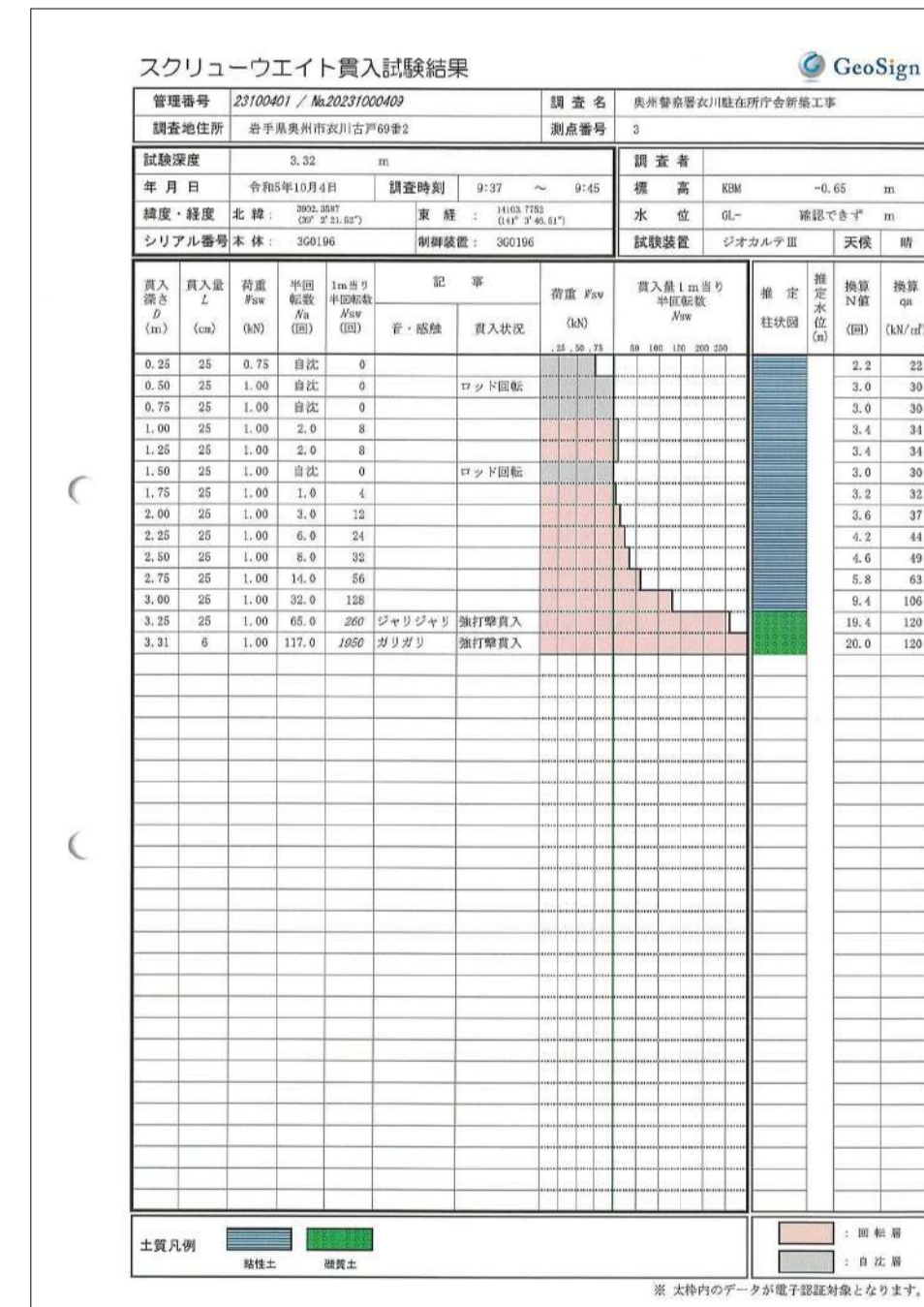
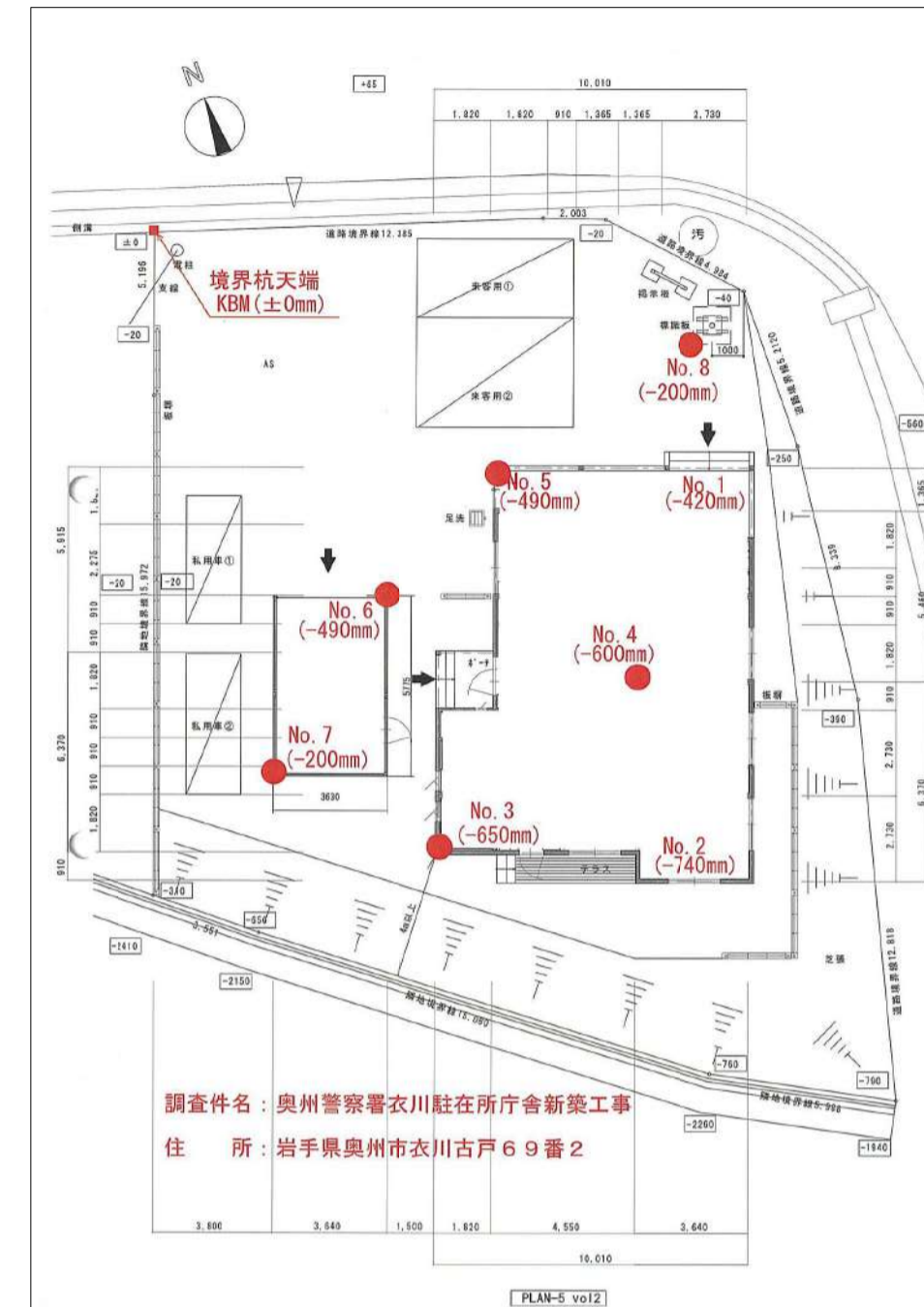
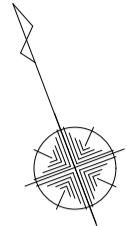
施工深度目安
GL-3.75m×16本



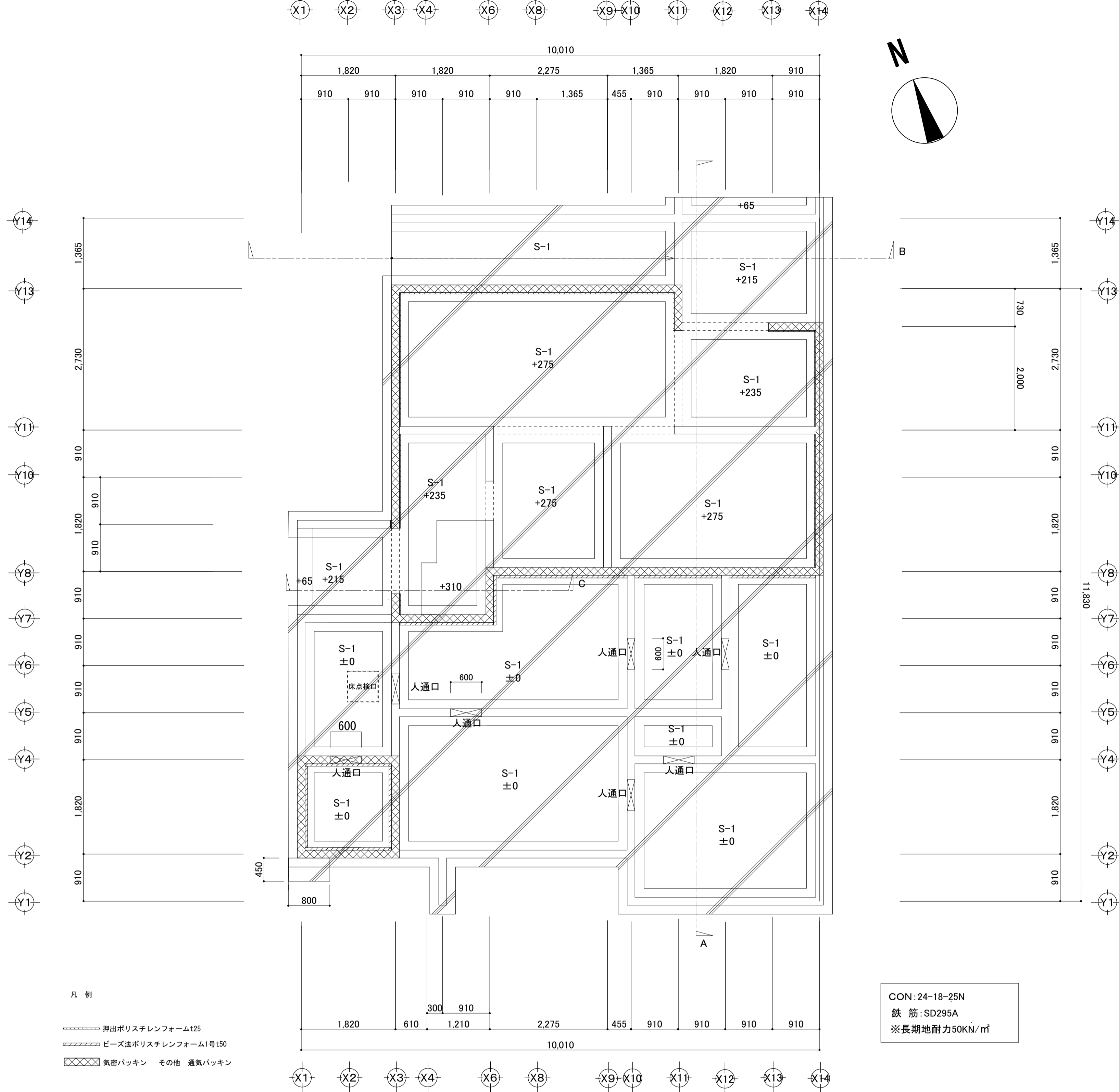
駐在所 杭配置図 S=1:50

改良体直径	φ 600 mm	固化材種	GS225	先端N値(土質)	10.0(砂)	施工サドル	シングル・ダブル
改良深度	GL-2.75~3.75m	配合量	300 kg/m ³	コア採取箇所	3箇所	杭頭部	羽根切回数 600回
改良長	— m	W/C	60~80%	深部	1箇所	GL-1.25m	設計地耐力 50 kN/m ²
本数	59本	支持形式	支持・摩擦	調査データ	No. 1付近	設計基準強度	440 kN/m ²
総改良長	199.75 m	外周入れ	— mm入れ	検査対象層	粘性土		

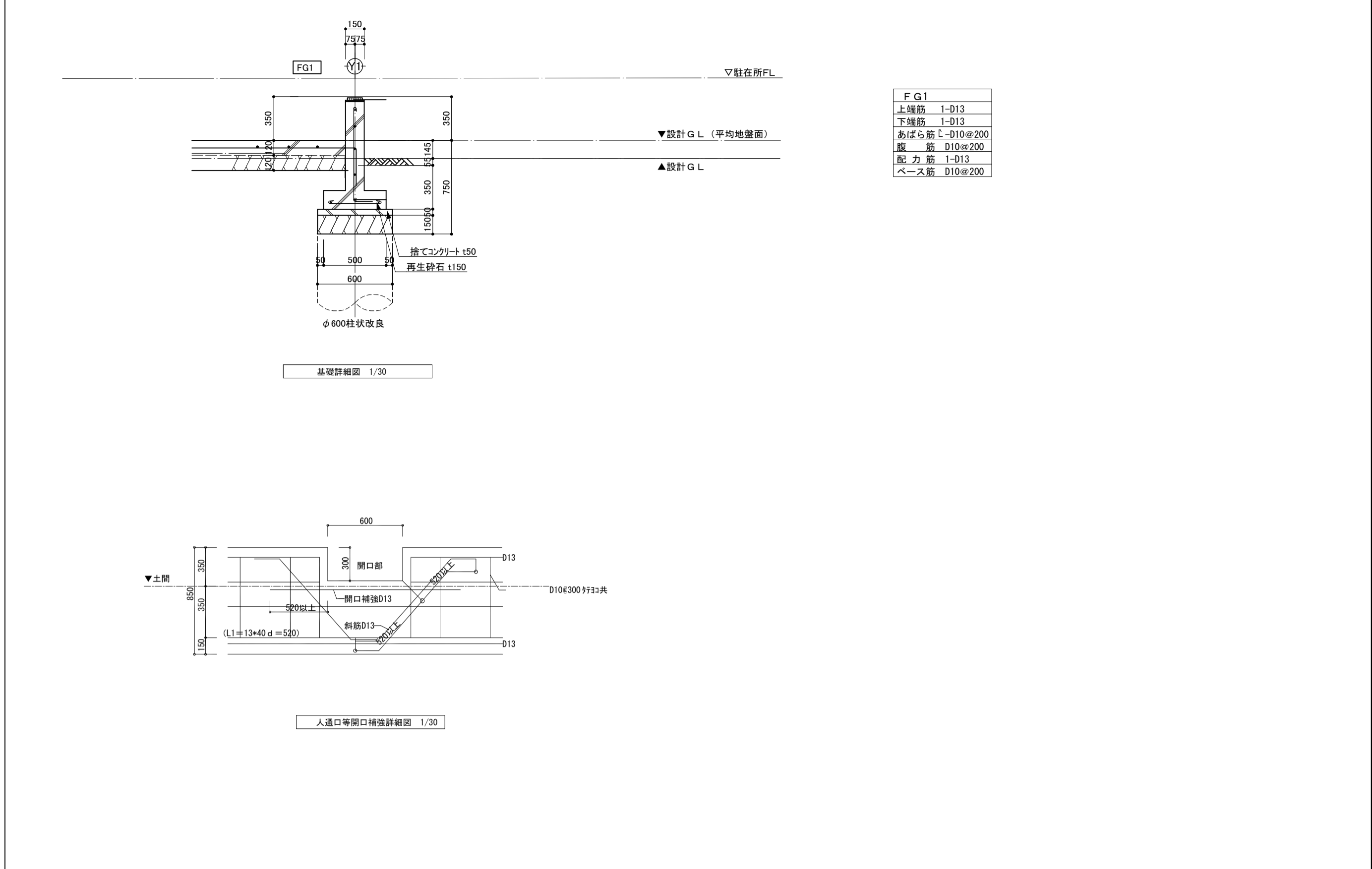
○	指示	旗
○	BM	
○	GL	
○	内	
○	外	
○	深	



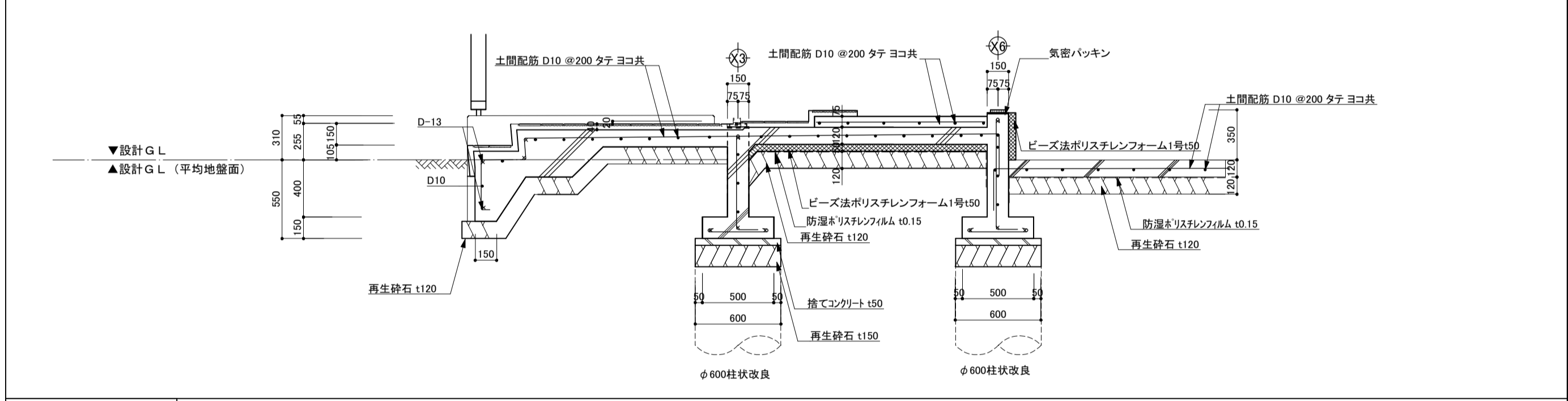
基礎伏図 S=1:50



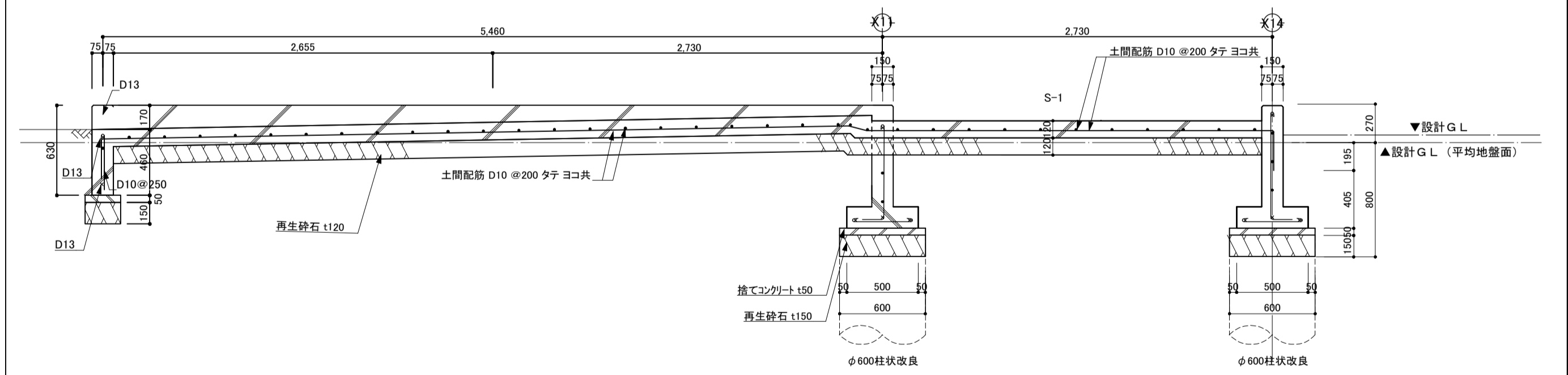
基礎詳細図 S=1:30



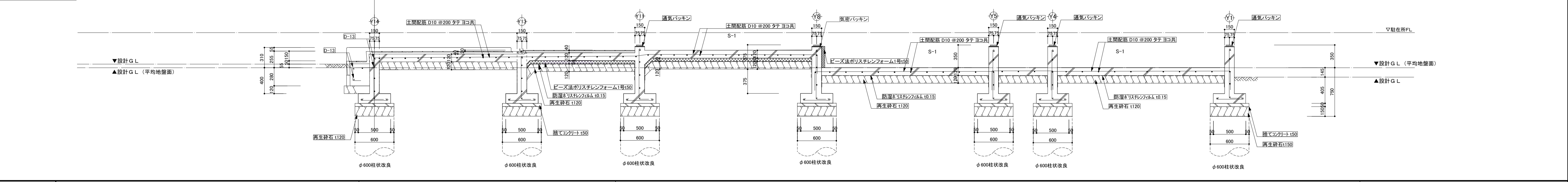
C断面図 S=1:30



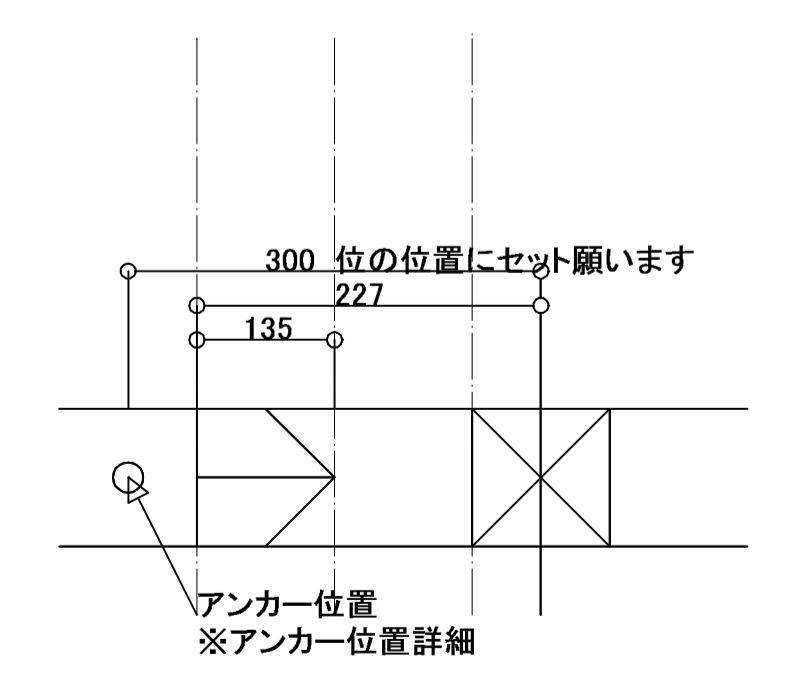
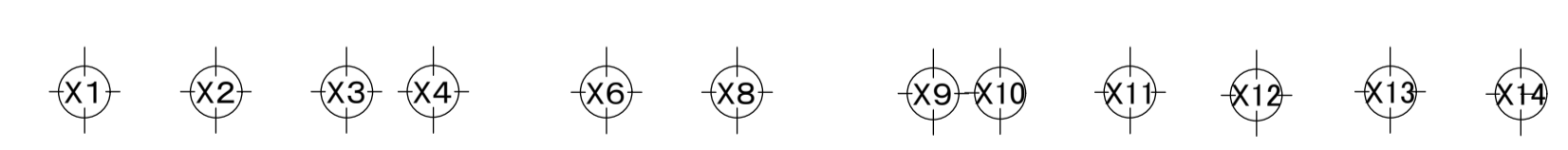
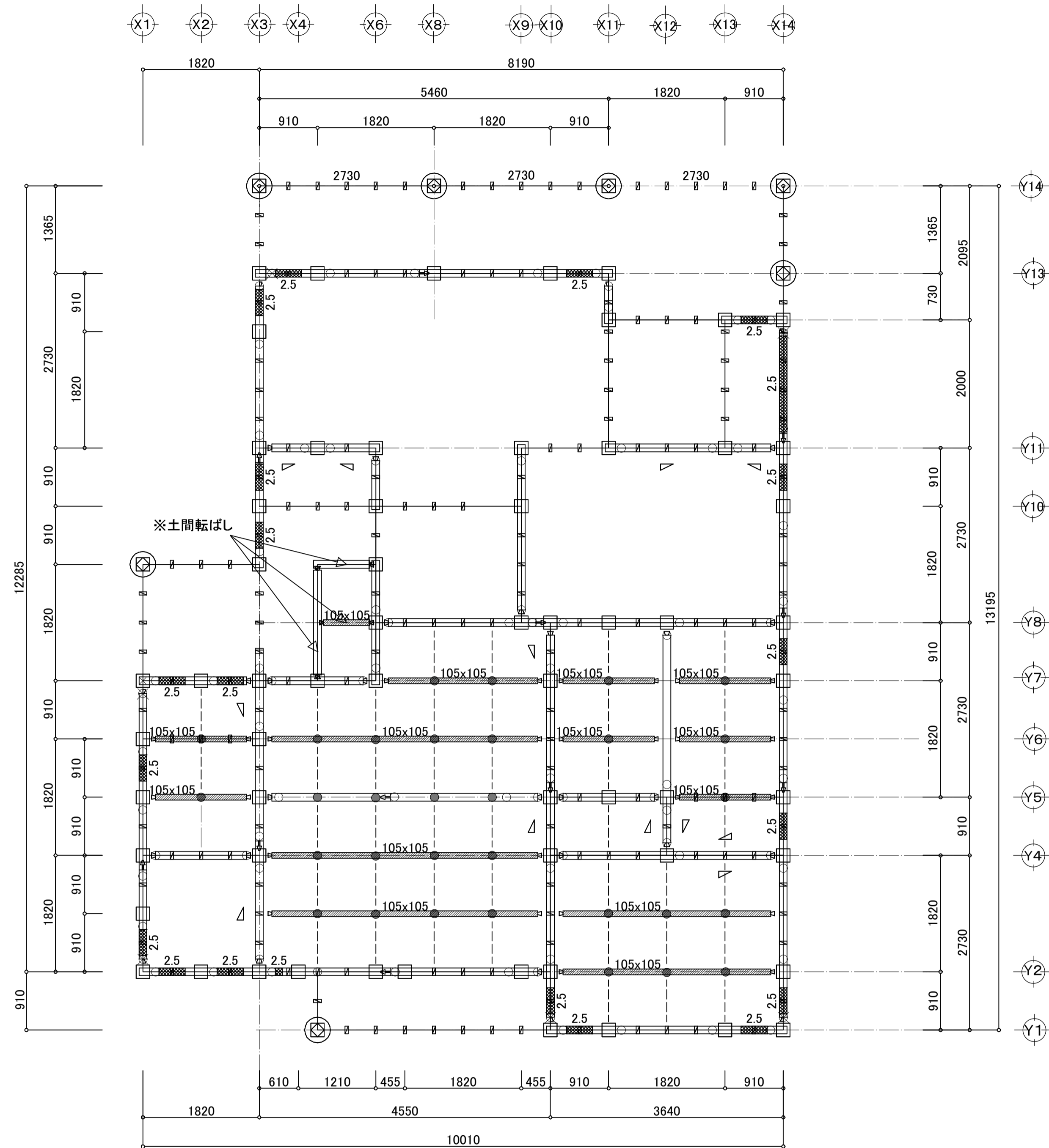
B断面図 S=1:30



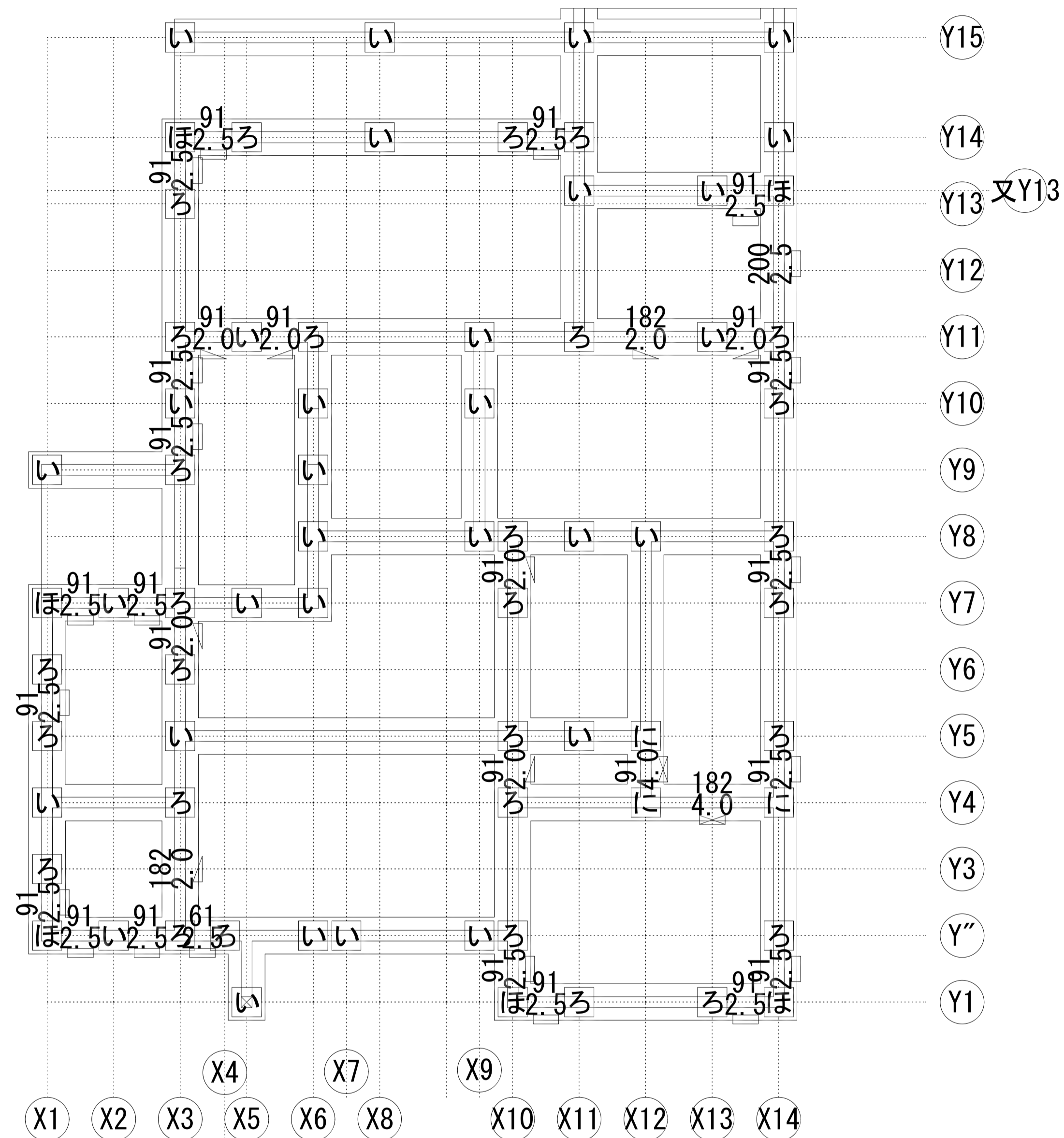
A断面図 S=1:30



凡例	
☒	管柱：特記なき限り105×105 材種 杉KD材
☑	管柱：表しを示す(杉KD プレーナー仕上)
▮	間柱：105×30 材種 KD材 防腐防蟻剤塗布とする
▬	土台 105×105 防腐土台(米つが) 土台下 土台パッキン据付(通気・気密)
▨	大引 105×105 材種 米松 KD材 防腐防蟻剤塗布とする
----	根太 45×60 材種 杉 KD材 防腐防蟻剤塗布とする
	床組は構造用合板t28(千鳥張り)張り根太レス工法とする N75@150止め
⊗	柱却用アンカーボルト M16 L=600 10kN引寄せ用
○	土台用アンカーボルト M12 L=400 土台端部、土台継手、筋かい端部に配置 その他@2000mm以下
●	鋼製束 YTB-2438L 同等品
	※外周廻り部の柱、間柱、壁合板、窓受け材は、設計GL1,000まで全てを防腐防蟻剤を塗布するものとする



1階床伏図 S=1:50



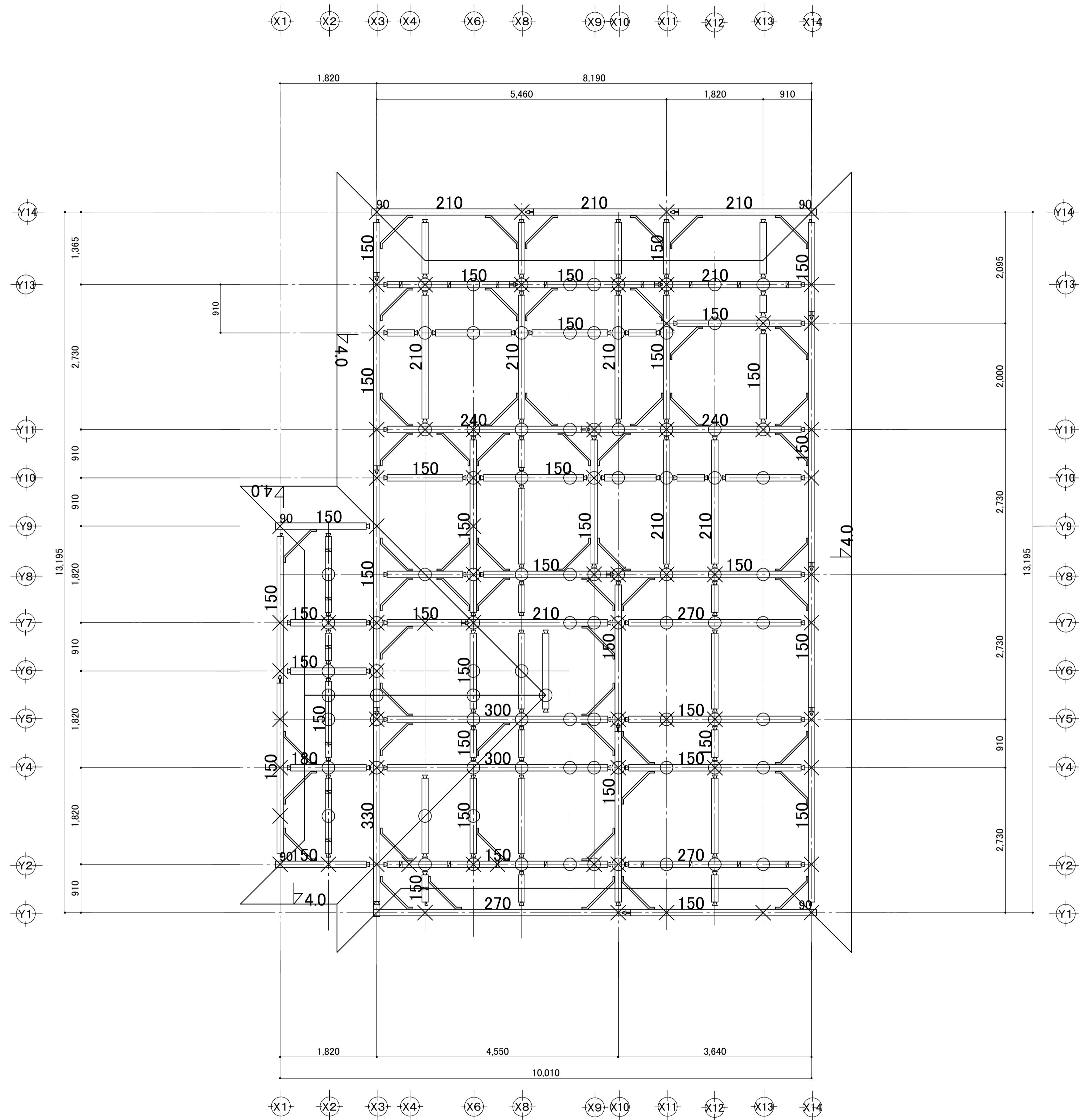
部材リスト (柱壁)	
柱	
い	管 柱：特記なき限り105×105 材種 杉 KD材
耐力壁	
	筋かい 45×90 両筋かい 端部金物 BP-2 材種 米松 KD材 壁倍率：4.0
	筋かい 45×90 片筋かい 端部金物 BP-2 材種 米松 KD材 筋かい方向 上 壁倍率：2.0
	構造用合板 t9.0 壁倍率：2.5
<p>※小屋束端部金物は (い) -かすがい2本を使用 ※ (へ) による柱脚土台引き金物とする場合は、 周囲の土台アンカーボルトの座金は50角とする。</p>	
<p>柱脚・柱頭金物 通し柱：柱脚又は柱頭金物記号 柱勝ち管柱：柱脚金物記号 ※仕口は全てホゾ差し 管柱：柱脚及び柱頭金物記号 ※金物記号は建設省告示1460号に準ずる</p>	
い	短ほぞ差し、かすがい打 同等
ろ	L型かど金物 同等品 又は 込み栓打込み
は	T型かど金物 同等品
に	羽子板ボルト引き又は短冊金物 同等品
ほ	10kN用引寄せ金物
へ	10kN用引寄せ金物
と	15kN用引寄せ金物 (柱脚15kN用HD金物)
ち	20kN用引寄せ金物 (柱脚20kN用HD金物)
ぬ	15kN+15kN用引寄せ金物 (柱脚15kN用HD金物)

※へか金物において梁の上下で引き合う場合は、強度の高い方に合わせること
 ※ (へ) による柱脚土台引き金物とする場合は、周囲の土台アンカーボルトの座金は50角とする。

(い)	(ろ)	(は)	(に)	(ほ)	(へ)	(と)	(ち)	(り)	(ぬ)
5	30	0	3	6	0	0	0	0	0

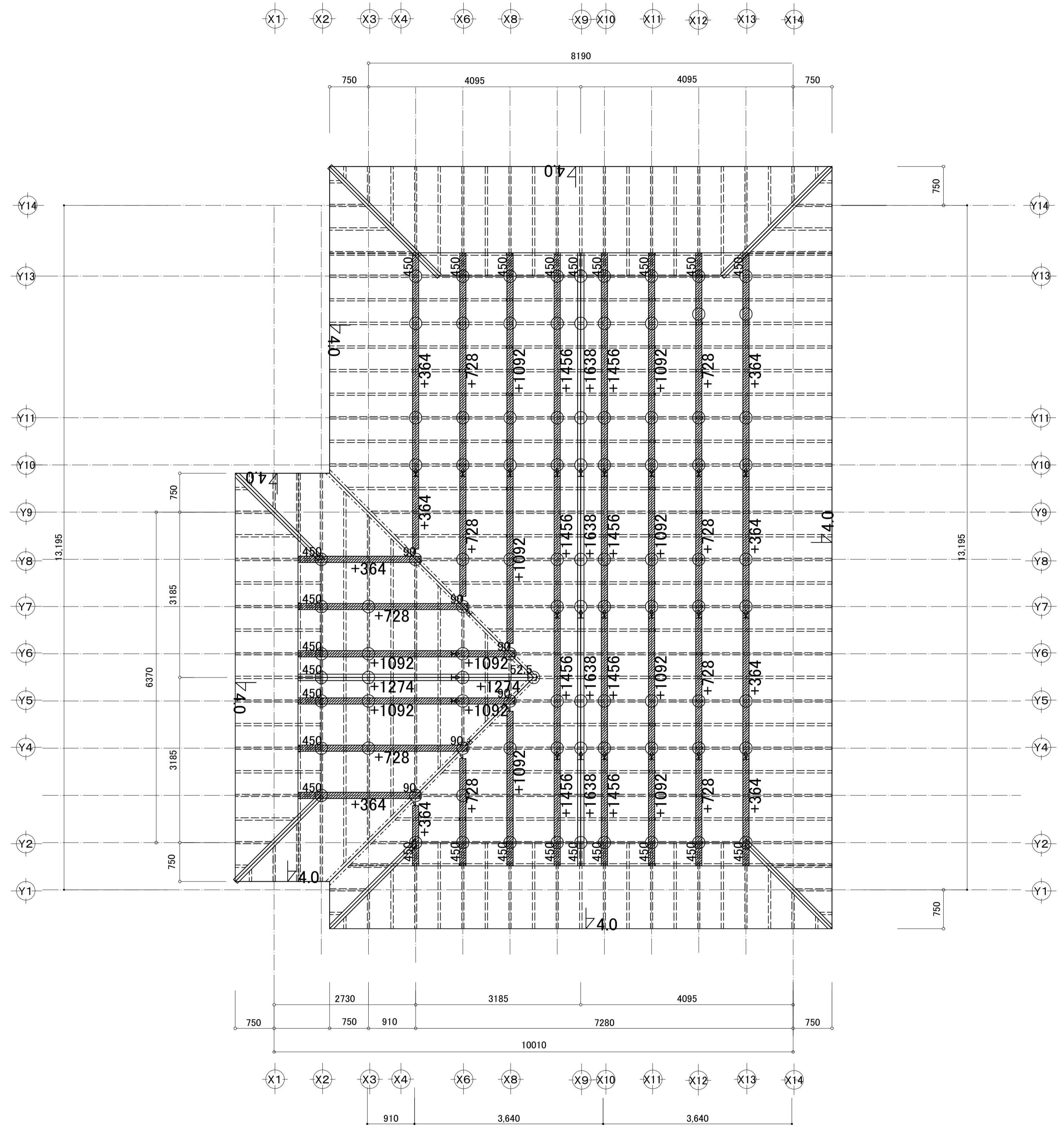
柱 伏 図 S=1:50

凡例	
×	1階柱材、105x105、材種 杉KD材
≡	桁・梁材、梁幅105、材種 米松KD材 梁成240以上L5000以上または梁成300以上 米松集成 伏図の梁上の数値は梁背を示す
∟	火打ち金物 HB 990
○	小屋束、105x105、材種 米松KD材
	梁受け金物
	米松集成を使用す梁材はE-135-F375を使用する



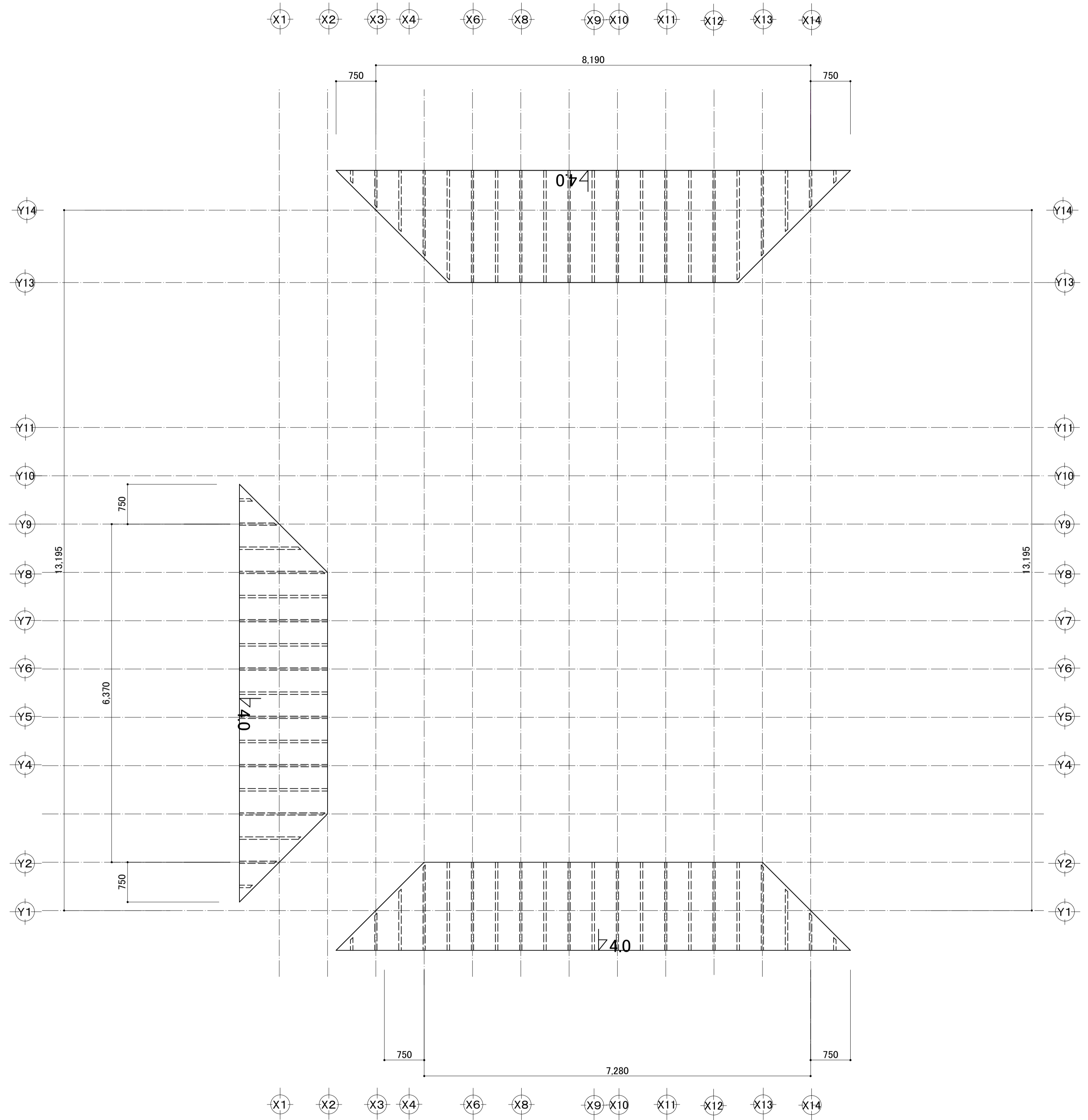
小屋伏図 S=1:50

凡例	
	母屋 : 105x105、材種 米松KD材
	棟木 : 105x105、材種 米松KD材
	隅木 : 105x105、材種 米松KD材
	谷木 : 105x105、材種 米松KD材
	小屋束 : 105x105、材種 米松KD材
	垂木 : 45x75、材種 杉KD材
	野地板 : t=12 釘N50
	※小屋束端部金物は(し) -かすがい-2本を使用
	※垂木の軒先部は軒桁にひねり金物で止めとする

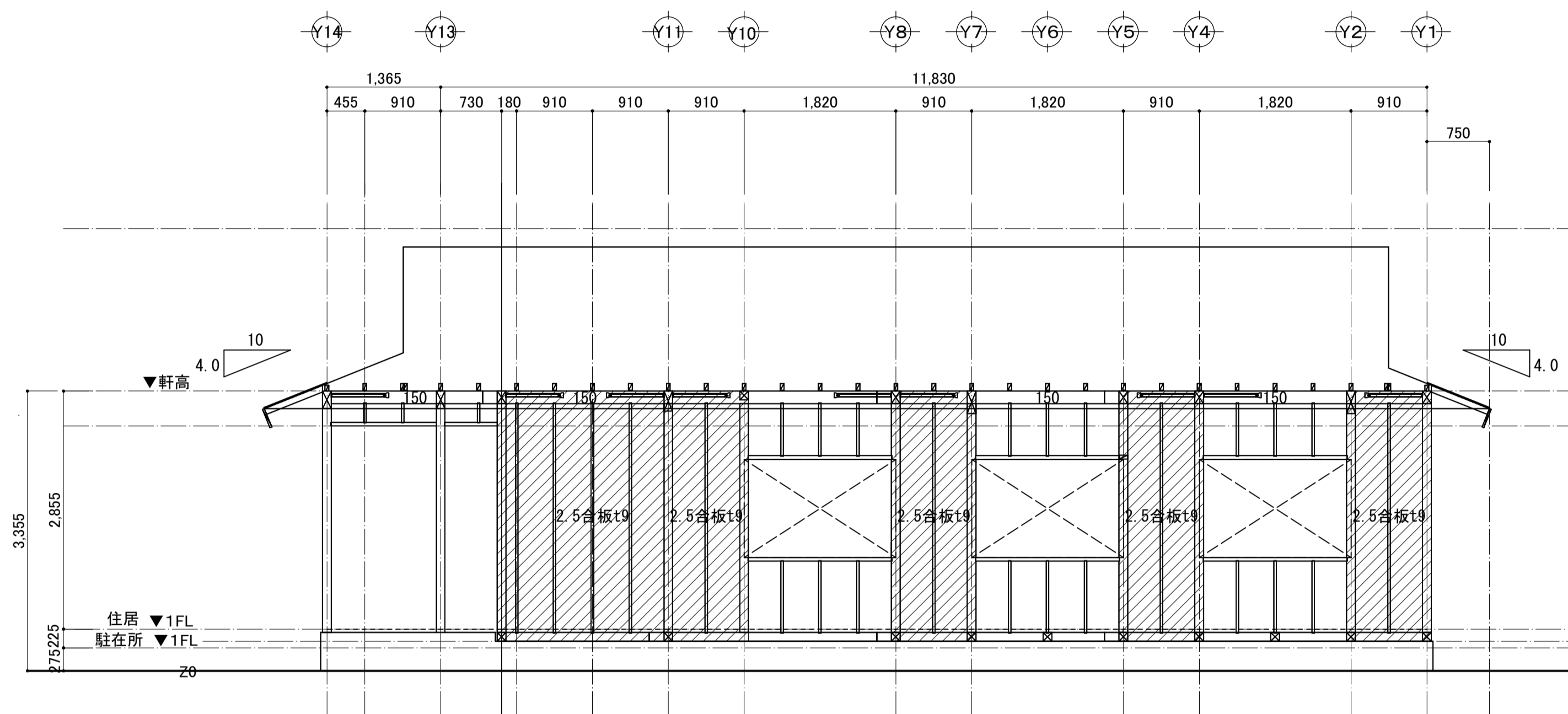


母屋伏図 S=1:50

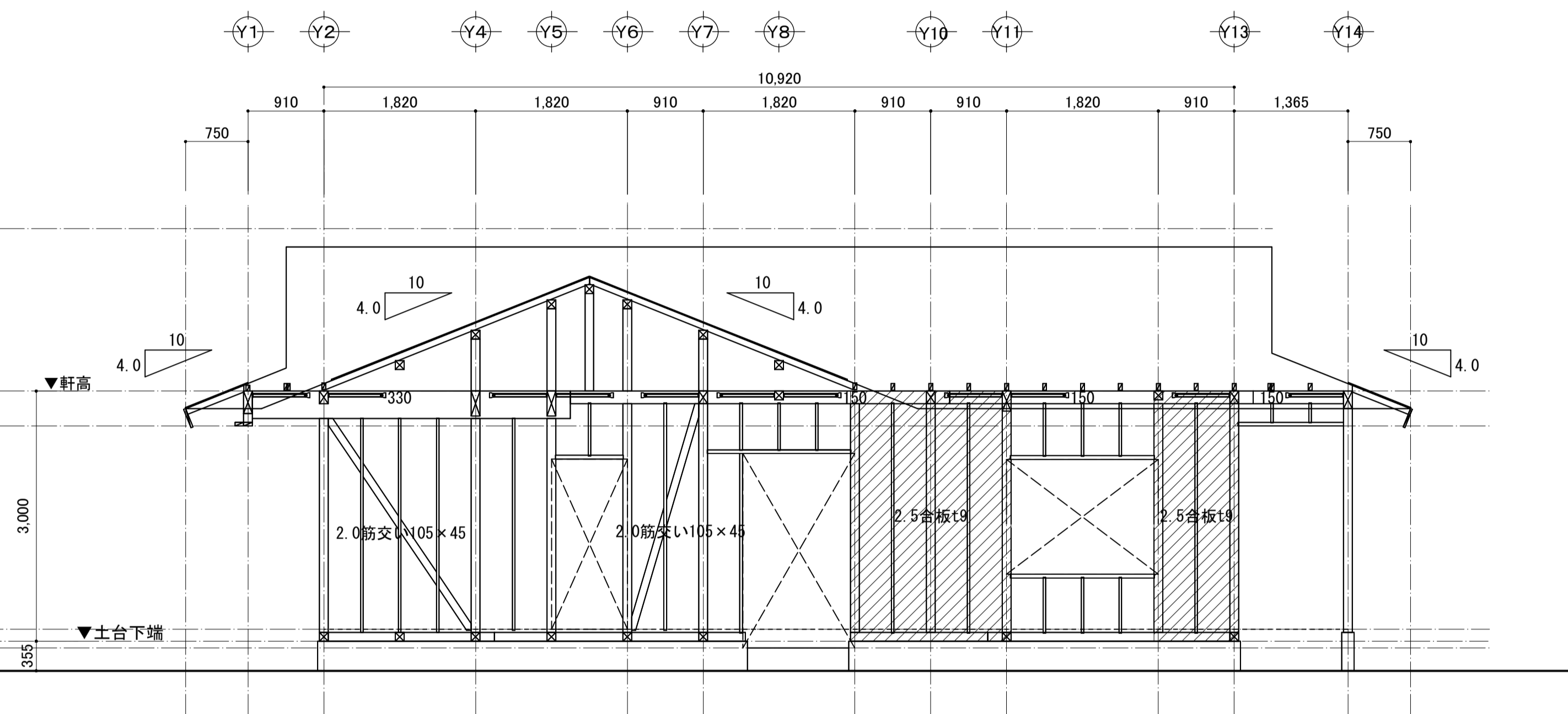
凡例	
	母屋：105x105、材種 米松KD材
	棟木：105x105、材種 米松KD材
	隅木：105x105、材種 米松KD材
	谷木：105x105、材種 米松KD材
	小屋束：105x105、材種 米松KD材
	垂木：45x75、材種 杉KD材
	野地板：t=12 釘N50
	※小屋束端部金物は（い）-かすがい-2本を使用
	※垂木の軒先部は軒桁にひねり金物で止めとする



母屋伏図 S=1:50



X14通り軸組図 S=1:50



X3U軸組図 S=1:50

製作年月日		奥州警察署衣川駐在所庁舎新築工事	設計図	図面内容 X通り軸組図(1)	縮尺	図面番号 No. S-15
					1: 50 (A1) 1: 100 (A3)	